（一）第三千六百八十六號　（明治三十九年九月十八日第三種郵便物認可）　THE KEIJO NIPPO　大正六年十二月二十一日　（木曜日）

京城日報

二十一日夕刊（朝夕刊併せて八頁）

本紙定價　一ヶ月金五十五錢　發行所　京城太平町通一丁目　京城日報社　印刷兼發行人　小川三之助

東露の形勢

▲哈爾賓支那兵警備
陸軍委員會對ホ將軍擁護派危殆

勞兵會首領リューチン氏を中心とする陸軍委員會と東清鐵道長官ホルワット將軍擁護派との關係は危殆に迫り同時に哈爾賓支那兵の形勢危殆となり十九日朝突如武裝せる支那兵は市內各所に三間毎に整列して非常警備を爲し其の數四千五百に達し六門の機關銃を携へ居れり尙北京駐在露國公使の命に依り新市街鐵道廳附近の露國總領事館は埠頭に移轉し總領事館は支那兵の宿舍に充てられ居れり之れ鐵道派の過激派に對する對抗策なり（哈爾賓電報）

▲孟督軍東清回收建議
吉林督軍孟恩遠氏は哈爾賓の狀況を報告して曰く過激派は飽迄東淸鐵道引渡を迫りホルワット將軍は之を如何ともする能はざるに至れり而して今や外交部に外國經營の鐵道回收計畫ありと聞く宜しく此の際條約に依り一大勢力ある督辦を任命し該鐵道回收の計を爲す可しと建議せり（北京特電）

○講和談判と獨墺外相
ミュンヘンよりの報道に依れば墺匈國外相ツェルニン伯及び獨逸外相キュールマン男は二十二日露國政府外相トロツキー氏と會見講和談判を爲すべくブレストリトウスクに向け出發す可し（倫敦電報）

○王總理停戰命令
王總理より大總統に提出し裁可されたる停戰命令は十九日裁可されたり其大意は「共和政治は以て民を利するにあり昨今戰亂引續き寧日なし陸榮廷、唐繼堯等既に戰爭を止め平和解決を電命せり然も暴徒相踵で起り紊亂熄まず速かに南北妥協し國本を鞏固にす可し」（北京特電）

○林公使歸朝
林公使は年末年始の休暇を利用し二十五日北京出發二週間の豫定にて歸京する事となり二十日公使は馮總統に謁し歸朝の暇を告げ內外の時局に就き談話を交換したり（北京特電）

◎四川に猛進せる雲貴軍の首腦
重慶占領の雲貴軍は更らに猛進して四川軍を擊破せんとしつゝあり勞侮るべからざる形勢なり。而して之れを指揮する貴州軍は劉顯世督軍の弟なる王文華中將にして又雲南軍は前きに唐繼堯の參謀長として護國軍に有名なりし韓鳳樓少將なり

寫眞（1）は最近の貴州督軍劉顯世（如周）（2）は貴州第一師師長王文華（電輪）（3）は雲南督軍參謀長韓鳳樓（五峯）なり

○鮮銀法改正　今期議會に提出
今期議會に朝鮮銀行法改正案提出さる可く右は同銀行の從來營み得ざる業務を特殊銀行として營み得可く改正せんとするに在り尙朝鮮總督府にては同銀行の保護奬勵發行限度を擴張の意ありと（東京電報）

○商船配當五割
大阪商船會社の今期配當率は五割と決定せり（大阪特電）

◎定例長官會議
二十一日午前十時より總督府第一會議室に於て開會山縣政務總監各部局長官及び所屬官署長等參集諸般の政務に就き協議する處ありたり

◎朝鮮拓殖銀行計畫
六農銀の併合＝資本金一千萬圓

漢湖、平安、全州、光州、慶尙、咸鏡の六農工銀行を打て一團にする朝鮮拓殖銀行の

▲併合計畫 は總督府にあり今期議會に關係法案を提出する筈なるが鈴木度支部長官の談に依れば其の如何なる形式を具へ又如何なる條件を以て合併を實行さるゝかは未だ詳知し難きも聞く所に據れば六農銀の併合により新に成立すべき銀行の名稱は朝鮮拓殖銀行と稱し公稱資本金を一千萬圓とし拂込資本金の十倍乃ち資本金額拂込濟みとなれば

▲一億圓 までの農工債券發行權を與ふべく鈴木長官が大藏省預金部より低資融通を受くる事とならんと稱し居るは拓殖銀行債券の引受けを預金部に求むるの謂たり又各農銀の資金は從來東拓の金融部を介し調達する事多かりしが拓銀成立後は預金部のみならず一般市場に對しても獨行して債券の發行を行ふに至らん又其の營業種目は大體に於て現農銀と異ならざるべきも其の信用の增大と共に活動を自由ならしめ半島拓殖上に貢獻する所少からざるべし更に拓殖銀行が三百餘の金融組合と

▲密接の關係 を持するは勿論なるが特筆に値するは拓銀の本支店出張所が現農銀の全部を包容する時四十八箇所の多數を算する事なり姑らく實質上の觀察を外とし其の數より論ずれば新拓銀の本支店（本店は多分漢湖農銀ならん）四十八は本邦第一にして他に比肩する銀行を見ず安田銀行の二十九並に朝鮮銀行の二十九は本邦有數の多數機關を備へたるものなるが尙ほ新拓銀に比すれば約二

▲銀行の範圍 に於て十箇所の選色ありと云ふを得べし尙は新拓銀の成立は現農銀の行員は其の儘殘るが故に今後は全鮮に亘りて其の活動を實行し得るを以て行員間の喜びも大方ならざるものゝ如し

◎辭令
十九日附を以て左の通り辭令ありたり

任朝鮮總督府道慈惠醫院醫官　敍高等官七等七級俸下賜　朝鮮總督府道慈惠醫院醫官　高橋　寛

依願免本官　陸軍步兵中尉　齋藤　美夫

任朝鮮總督府醫院醫官兼京城醫學專門學校教授　敍高等官七等五級俸下賜　日本赤十字社病院醫員　柳樂　達見

齒科醫長を命す

任朝鮮總督府技師兼京城工業專門學校教授　敍高等官七等九級俸下賜　朝鮮總督府技手　小岩井兼輝

任朝鮮總督府判事　敍高等官八等十二級俸下賜　金　貞培

補公州地方法院大田支廳判事　朴　志永

補釜山地方法院馬山支廳判事　金　永烈

補釜山地方法院密陽支廳判事　孫　永穆

任朝鮮總督府郡守（各通）　鄭　僑源

敍高等官八等十級俸下賜　慶尙南道居昌郡在勤を命す　孫　永

敍高等官八等十一級俸下賜　慶尙南道固城郡在勤を命す

◎臺紙附切手好況　大口申込續々
小額補助貨の代用となるべき臺紙附郵便切手は二十一日より京城外九郵便局にて賣出したるが何分補助貨不足の折柄とて時宜に適したるため大口申込殺到し各郵便局とも二十一日早朝來賣上の賣切れを見たり現に京城郵便局の如き朝鮮銀行漢湖農工銀行其他二三の銀行を主として其の大口買受けの申込あり而して單り漢湖農銀の申込のみにても京城郵便局に割當てし分を超過する有樣にて京城郵便局は止むを得ず各方面の申込みに否定を加へたるが當局にては勿論今後印刷の及ぶ限り其の調出を行ひ追給を實施する豫定なり尙ほ二十一日より市場の一部に於て早くも其の圓滑なる流通を見たるが總て必らずしも多からざるに付普通的ならず

◎露留換算率回復
東淸鐵道及び烏蘇里鐵道に於ては日滿連絡の運送貨物の運賃收受の際適用すべき換算率は從來日貨百圓に付露貨八百留の處本月十六日以降七百留となれり

◎李男爵逝去
男爵李胄榮氏は去十八日京畿道抱川郡の本邸に於て逝去したり享年八十歲

◎立花師團長動靜
鴨綠江沿岸各地守備隊及び國境地帶視察の爲め出張中の第十九師團長立花中將は高級副官田原少佐を隨へ一行は二十日中江鎭を出發し同夜芦洞に一泊し二十一日同地發古城に向ひ明年一月上旬京城に歸還の豫定

◎今井氏著發
旅順の鮮銀出張所長たるべき前營業事務所長今井八十次氏は廿日入京廿一日本店にて事務打合の上午後九時四十分發列車にて旅順に赴任すべしと

◎早川少將退京
入京中なりし平壤旅團長早川新太郎少將は二十一日朝出發歸壤せり

◎鮮銀總裁消息
美濃部鮮銀總裁は二十日午後十時着列車にて木浦著三吉野旅館に投じ二十一日は光州に行き更に午後四時木浦に引返し同夜官民の主なる者を招待し二十二日正午發列車にて出發歸京すべしと（木浦）

◎吉田司事歸朝
英國派遣中なる吉田司事は二十七日歸朝入京すべし

◎內藤博士等出發
入京中なりし內藤文學博士稻葉君山氏は二十日夜出發內地に向へり

◎鮮銀の記者招宴
朝鮮銀行にては廿三日例に依り各新聞通信記者を招待忘年會を開催すべし

◎昨年中養蠶狀況
春夏秋蠶共前年に比し何れも增加

大正六年中の養蠶戶數は春蠶二十七萬一千百六十九戶夏蠶二萬四千五百八十九戶秋蠶七萬二千七百十一戶にして之を

▲前年に比すれば 春蠶三萬三千八百三十四石（一割一分）夏蠶七千八百十八石（四割七分）秋蠶三萬四千四十三石（八割八分）を增加せり蠶種掃立枚數は內地種四十二萬五千三百八十五枚在來種一萬九千三百四十五枚合計四十四萬四千七百三十枚を算し繭產額は內地種九萬四千四百七十七石在來種二千七百八石合計九萬七千百八十五石にして前年に比し蠶種掃立枚數に於て九萬六千九百十枚（二割八分）繭產額に於て二萬五千二百六十四石（三割五分）を增加せるのみならず內地種の總額に對する割合は掃立枚數に於て九割六分、繭產額に於て九割七分を占むるに至れり今之を養蠶期節別に示せば

▲春蠶は初春以來の氣候概ね低溫にて蠶兒の發生例年に比し約一週間遲れたるのみならず掃立後に於ても依然として低溫打續き且地方に依りては一回の降雨も見ざるが如き狀況なりしを以て桑葉の伸長は蠶兒の發育に伴はざるの憾ありしが六月初旬以來氣溫遽かに昇上して桑葉の發育を遂げたる爲蠶種掃立枚數は三十二萬八千十四枚卽ち前年に比し一割五分の增加に過ぎざりしも繭產額は七萬八千十二石卽ち前年に比し二割七分の增加を示せり

▲夏蠶は春蠶末期に於ける氣溫の急進に依り春蠶飼育日數一兩日短縮せられ桑葉に幾分の殘餘を生じたる結果蠶種の掃立枚數は二萬四千五百八十四枚卽ち前年に比し四割九分を增加したると三月蠶中の天候概して順調にして蠶兒の發育良好なりしとに依り繭產額は四千六百七十九石卽ち前年に比し六割五分を增加せり

▲秋蠶は春夏蠶繭の價格未曾有の高値を唱へたる結果秋蠶に對する養蠶家の意氣込頗る強く蠶種掃立枚數は前年に比し約倍加し九萬二千百三十二枚を算し繭產額は一萬四千四百九十四石卽ち前年に比し九割の激增を示せり之を要するに大正六年の養蠶は育蠶期中の天候概ね順調にして豐作を得たるのみならず繭の價格は未だ曾て無き高値を唱へ一般養蠶家の收益は前年に倍加するの好況を呈し農家經濟を潤ほせる處少からざりしは大に注目に値すべし然れども狀況を見るに養蠶戶數（春蠶飼養戶數）は逐年增加の趨勢を示しつゝありと雖も大正六年に於ける其の增加戶數は三萬一千八百餘戶卽ち一割四分にして蠶種掃立枚數及び繭產額の增加に比すれば甚だしき遜色あるのみならず農家戶數に對する養蠶戶數の割合は全道の平均一割三厘に過ぎず又最も普及せる江原道と雖も一割八分一厘を出でず而かも養蠶家一戶の產繭額は春夏秋蠶を通じ平均三斗五升八合にして其收入は本年の如き繭價の昂騰せる時に於ても

▲卅圓內外の程度に在り養蠶を以て有力なる農家の副業たらしめむとせば更に一段の努力を加へ速に其普及を圖らざる可からず左に養蠶統計累年比較を揭ぐ

▲養蠶戶數（春蠶）蠶繭額

	養蠶戶數（春蠶）	蠶繭額
四十三年	七六、〇三七戶	一三、九三一石
四十四年	一〇一、六六二	二〇、〇三二
大正元年	一四九、九二七	二九、四四〇
同 二年	一六七、三四二	三六、八七一
同 三年	一七七、三二〇	四六、一九四
同 四年	二〇一、九六三	五九、一五六
同 五年	二三七、三二九	七一、九二一
同 六年	二七一、一六〇	九七、一八五

◎鐵道院新驛開業
本月十五日より小濱線（北陸線の一部）敦賀十村間一般運輸營業を開始せるが右線と連帶の取扱をなすべしと新設停車場左の如し
▲粟野 ▲河原市 ▲三方 ▲十村

◎巡査通譯兼掌試驗
京畿道警務部管內各警察署に於ては十九日巡査及び巡査補の通譯兼掌語學試驗を擧行せり

人事消息
▲藤谷高兵少佐（江原道警務部長）二十日午後平壤より入京山本旅館へ
▲高橋本吉氏（代議士）二十日午後內地へ
▲白完爀氏（漢湖農銀長）二十一日午前東京より歸京
▲根山金鐵員一行五名　二十一日朝入京朝鮮ホテルへ
▲片桐文造氏（三井物產社員）二十一日朝入京天眞樓へ
▲白井永城氏（醫院士）廿一日仁川より入京
▲蒲生治太郎氏（總督府技師）二十日附を以て慶尙南道並山口福岡佐賀長崎各縣へ出張を命ぜらる往復二十日の豫定
▲澤崎修氏（總督府事務官）京釜線及び京義線沿線各道へ出張を命ぜらる
▲岸井長三郎氏（總督府技師）二十日忠州へ出張往復三日間の豫定

支那の詩畫史
（四）今關天彭氏談

○唐の詩界は李白や杜甫や、王維、孟浩然等の出た盛唐の後は、中唐の時代と云つて白樂天や劉長卿やが出て稍一變し、穩かな中に淸い所を持つた思想を重に歌つた。韓退之も此の時代の人である。此の中唐に次で晚唐となるのである。晚唐は五代卽ち梁、後唐、後晉、後漢、後周までを包括して此の時代の詩界で有名なのは杜牧之や李義山や許渾等である、此の時代の行き方は新らしき事を云つて、而も如何にも風致がある。

○玆に擧げた三人の中に於て、文學界に最も影響を與へたのは李義山である、此の人の詩は誠に奇麗な上に奧床しい所があり、一時は非常な勢で流行した、要するに詩は唐代文學の代表者であるから詩を作るもの、上は帝王より、下は田夫野人に至るまでといふ盛況で、詩人として後世に名を知られて居るものが非常に多かつた。

○畫客もまた一般に愛好せられたから畫き手が隨分多く出たのである。「歷代名畫記」を著した唐末の張彥遠が數へた唐代畫人の數は凡そ百人ばかりあることゝ記憶するそれに宋の郭若虛の圖畫見聞誌にある唐代畫人を加へたら、恐らく二百五十人もあるだらう。

○これ等は皆な立派に一家をなした畫き手ばかりである、これで唐代に於ける畫界繁昌の狀態が判明すると思ふ。こゝに一寸注意して置きたいのは晚唐の山水大家荊浩の名である。この位で唐代を終ろうとして、さて宋代に移ると、宋が五代の紛亂を一定して、再び太平の時代となつた。それに宋第二世の天子太宗といふ王が多趣味であつたから文學、美術の方面が勃然として首を擧げた、しかし宋代は唐代が詩の時代であると同じく畫の時代であつた。卽ち繪は詩より後れて大發達を遂げたのである。

○宋代の畫には二つの徑路がある一つは後蜀から來り、一つは南唐から來た。後蜀は五代の時に國を立てたところであるが、その王に孟昶と云ふて奢侈を極めた風流の人があつて、その夫人、花蕊夫人との話は、詩人の最も欣んで詩に入れるところであつた。この王は畫を好み、繪所に黃筌、黃居寀と云ふ父子の畫師を召されたが、後蜀が宋に亡ぼされて、此の父子は宋の太宗の繪師となつた。

講談雜誌新年號

新年大附錄
▽宇治川の先陣より
義經、靜の對面（大長講百枚）猫遊軒伯知
千年に因む名馬譚、梶原佐々木宇治川の先陣爭ひより旭將軍義仲の戰死となり、日本一の義經が日本一の靜と始めて語る京の春は如何？

大判口繪　春の宴…伊東深水
美貌派の天才青年畫家たる深水氏が心血を注げる大傑作、二十才の春彩色、新春口繪中の白眉たらん。

一　神崎與五郎【義士銘々傳】…桃川如燕
芝居では千崎彌五郎、其實錄の生立ち、盲ひの母を養つて行く村一番の孝行息子、ふとした事から人を殺し神崎家の養子となり、淺野家の一節者と云はれる人となるまで

一　鹿沼の粂吉…小金井蘆洲
妻の不貞より入牢の身となり、さに放火を企て、重き刑にもけられる所を新門辰五郎等の義侠に助けられ、明暦の大火に詔れて基夫の始りを切つて落す粂吉一世一代の活躍。

一　紅葉の間暗仕合【黑田騷動】…神田松鯉
妾お秀の方、毛谷主人など惡人原の奸計にさしもの黑田家も風前の燈火、こゝに忠家老大膳あり、紅葉の間より聞き出し光は何？

一　阿部川町の悲劇【おこよ源三郎】…悟道軒圓玉
本郷の小町娘が居なくなつた、佛甚兵衞の曲にあつた龜甲の甲、寄がやんで二階でうめくやうな聲がする、百三十間はもうこつちのものだ。

一　女勘助【天明白浪傳】…錦城齋典山
松坂木で女の盜賊、助けて見れば女すがたの道中かせぎ、長崎までは落ち延びたが、再びかへる白浪の結末如何になり行くか？

一　利源の深慮【吉野太夫】…島田兵庫
打つて變つた太夫の仕打、屑に落ちれば利源の嘗子、奧の奧の多い男心にっぷのれやれと昼間の京の冬は靜かに消しい。

一　的盧の檀溪越…寶井馬琴
馬上に人なく、馬下に馬なく、ひらりと飛べば飛沫に影なし、名馬に名將、對ふ所に敵もなし。

落語四編
網取魚…柳家小さん
後家馬士…柳家左樂
長持…翁家さん馬
一目上り…三遊亭圓歌

雜錄
▲寄席の行燈 飛嘗語錄…森曉紅
▲坊主の心中…村田祭子
▲怪談 卅一夜物語…岡美二二部
▲本町俳壇…諸家

定價金十三錢　郵稅一錢五厘
賣捌全國各地書店
東京日本橋區本町　博文館　振替東京二四〇番

講談雜誌新年號は！
特に紙數を增加し
而も定價は常の如く一冊十三錢
面白いのと安いので天下無敵！

眼の廻るやうな交換局
交換手の氣苦勞も一通りで無い

何處も同じ歳暮の忙しさは京城市内三千二百の加入者を接續する交換局に渦巻き返して今日此頃の交換手の忙しさつたら眼が廻つてしまふさうである、電話係員の談に依れば昨年末の加入者は

▲二千内外で あつたが本年は市况に活氣横溢して居る結果か百五十口許り増加した隨つて市内外の通話度數は非常に多くなつたとの事である數字の上から其忙しさ加減を眼べると九十月中の一日平均通話度數は三萬二千回すこ一月は四萬回十二月に入ると

▲ぐつと増に て平月の三四割方增加すべく殊に十二月二十四五日から非常に忙しくなり二十七日に至つて最高潮に達し二十八日以後は官衙會社等の御用納めとなるから幾分通話度數も減ずるがそれでも平日に倍する忙しさである此頃で

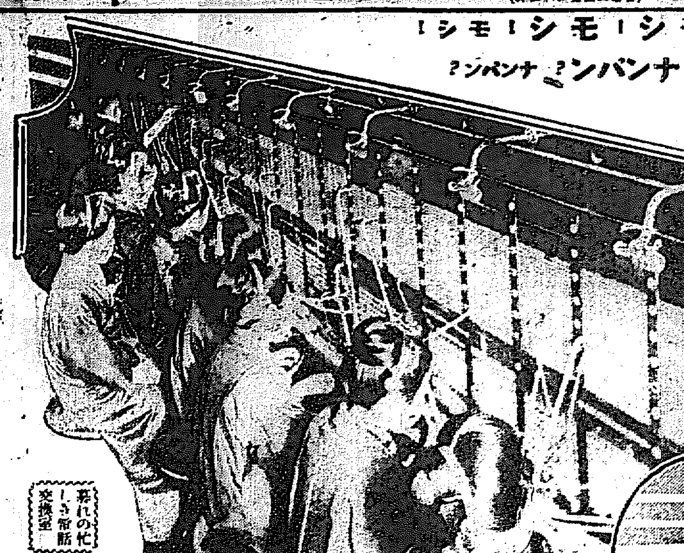
▲最も忙しい 時刻は表い朝は水道や瓦斯の故障で一寸暇もするが九時前後は一寸閑になり十時頃からだん〱忙しくなつて午後一時頃になると傍目もふれない程になる何分一日の電力消費量八百アンピヤに達する中百アンピヤ以上は此短時刻中に於て放電されるのであるから其忙しさも

▲想像以上で ある官衙會社などの退時刻からは多少醉かになるが灯ともし頃から深夜までの出は花柳界の獨舞臺で中にも三業者は間斷なしと言ふ有樣新築の電話機に至つては故障の多いので殆ど京城一との事如何に電話使用方が荒いかゞ窺はれる

▲斯樣に年末 になると通話度數は非常に増加するが交換手の能率は？と聞くと十一月中の接續平均時は六秒五で最も忙しい時には一時間に三百五十回位接續せねばならぬと言ふから餅搗だ併も取扱が間斷なく巡廻する五百番が耳元尖からして監督する其又後ではサーヴイス監査原紙に加入者が

▲局を呼んだ 時からの經過時分や交換手錯誤と言ふ欄に誤話不穩當、話中妨害、言語不明など言ふ欄を設けて一々交換手の不都合を記載する監督が居ると言ふ風で交換手の氣苦勞と言つたらそれは〱痛々しい程だ恁んなに二重三重の監督を受けて居るから

▲交換切斷も 敏速にせねばならぬので大抵二三秒間に遣つてのける併し交換手の不都合は閑の時に起り易く全日此頃のやうに繁劇を極めて居ると非常に緊張するから比較的錯誤は起らぬさうである



暮れの忙しき電話交換室

眼光物凄き三被告
金塊輸送馬車襲擊事件の公判

雲山金鑛金塊輸送馬車を襲擊し巡査一名外人一名支那人馭者一名を殺害し目的を達するに至らず

◆支那領に 逃走中を逮捕され新義州地方法院支廳にて審理の結果死刑の宣告を受けたる首魁李鎭龍（三九）黃鳳信（三一）黃鳳雲（二六）に關する强盜殺人事件控訴公判は二十日午後二時三十分より裁判長寺川陪席青山里見兩判事南角檢事の係りにて平壤覆審法院刑事法廷に開廷されたり淺黄の

◆未決服を 纒へる三被告は顔色蒼白憔悴し結髪は獄中生活の煩悩に蓬の如く亂れ一見凄愴の感禁せざるものあり就中明治四十一年以來暴徒の遊擊隊長として黄海道加耶山に本據を構へ腹心の部下五百を率ひ神出鬼沒我官憲を惱めし李鎭龍は身長六尺に垂んとし鬚髯頬を覆ひ

◆眼光炯々 人を射る如く魁偉の容貌一見其巨魁たるを想はしむ黃鳳信は小柄なるも側面憎き迄に落付き拂へり獨り散髪の鳳雲は戰々兢々として相並んで被告席に起てり裁判長は看守の増員を促し警戒嚴重を極めたり型の如く住所氏名年齡職業の審問に

◆何づれも 『農業』と答へ控訴の理由を質され何づれも『死刑の宣告は苛酷なり』と述べ更に『鎭龍鳳信は第一審檢事論告に對し吾等は喜んで死刑の宣告を甘受せんと豪語せるに卑怯ならずや』と追窮され兩者は『斯く公言せる覺へなし』と辯疏せるは窮せるものゝ如くなりき

◆先づ鎭龍 に就き裁判長は訊問を始め四十一年暴徒の激紫隊大將に推選され國權恢復を計らんとせる動機を質せるに被告は祖父の喪中なれば辭退せるに埋矢鑷に擔ぎ上げられ遂に隊長となり數個所に日本守備隊及び警察官と轉戰せるも其間官途にありしものには

◆危害を加 へしも普通民に加へしことなしと陳べ金塊襲擊事件に就いては大正三年部下なりし殷性復が來り國權恢復の資金たにあれば不可能事にあらず其手段として雲山金鑛馬車を襲擊せんと說き其後被服彈藥銃器を送り來れるも自分は是れを阻止せんが爲め努めたりと

◆豫審廷に 於ける供述を翻し否認せるも犯罪事實は是を承認し續いて鳳信の審問に移り閉廷せるは午後六時卅分なりき次回公判は未定なり（平壤）

盛んなりし虎肉試食會

山本唯三郎氏の主催に係る征虎軍虎肉試食會は豫報の如く二十日午後六時より帝國ホテルに於て開催されたり田遞相、仲小路農相、大浦、末松兩子爵、神尾、益田、大倉各男爵、小松原英太郎氏等を始め知名の政客、實業家等二百五十餘名の來賓は早くも五時過ぎより踵を接して來會非常の盛觀を呈したりデザートコースに入りて山本氏の招待辭終るや田遞相の答辭あり餘興には新橋校書連の虎踊及び西洋劇歌劇等あり同十時過ぎ散會したるが當夜の計畫、會衆の意表に出で近來稀なる盛宴なりき（東京特電）

柔道の稽古を始めた
―講道館支部―

曩に創設せられたる講道館朝鮮支部に於ては其道場建設迄一先づ憲兵隊司令部道場を借用することゝし二十日より毎日午後六時半迄同所に於て柔道の稽古を行ふことに決せり二十日夜は稽古開始とて開場に際し小田省吾氏より事業の經過報告、肝付五段より道場の心得等各一場の談話あり次で波來谷三段永嶋三段以下有段者等大小勇士三十餘名の猛練習あり冬の鉄猶血湧くの盛あり殊に何れも意氣旺なる上、稽古振の眞剣健闘なるは末頼もしく思はしめたり右稽古終つて茶話會を開き無事散會せり

因に支部規則は目下制定中にして一般の入門を待ち來る一月以降より取扱ふ由なるが、支部規則成立次第之を發表し引續き有段者會も開く豫定なるが在京有段者の來場稽古は歡迎すと

年末と臨時列車運轉

年末に際し汽車乘客の俄かに增加するは毎年の例なるが本年は市况の好影氣に伴ひ一層此の傾向著しく殊に内地行旅客頻繁なるを以て滿鐵京城管理局に於ては本月二十八九日の兩日南大門大田間に臨時列車を運轉し車内の混雜を避け一般乘客の便を圖る由にて右等の旅客は本臨時列車を利用すべしと因に其の發着時刻は如左

廿八日　南大門發午後七時一〇　大田著午前一、五〇
廿九日　大田發午後　　　　　　南大門著午前

支那紙幣十萬圓僞造
犯人捕はる

大連に於て支那紙幣十萬圓を僞造しつゝありし犯人二十日京都にて捕はれたるが此の紙幣は滿洲四平街居住の山口縣生れ林事中村林助より大阪梅田驛前藤井彌三郎に依頼し來りたるものなりと（大阪特電）

三重縣の大火

三重縣鳥羽にて二十日午後二時出火あり附近安樂島に飛火し鳥羽と相對し火焔天に沖し燒失家屋百六十戸損害多大なり三百戸ともいふ（大阪特電）

火事の二割は
漏電から
漏電發火の原因

警務部保安課木村技師談に曰く先達の株式取引所の火事は前後の模樣から漏電と推定されつゝあるし從來の火災に徴しても其原因の二割は漏電である、漏電發火の個所は天井、壁裏、床下等

各隊署一齊に出動して
浮浪者百五十餘名を檢擧す

年末に際し小泥棒の徘徊及び火氣取扱ひ其の他一般に警戒を要することて京城府内外各隊署にては二十日深更より二十一日未明に掛け各管内共憲兵警察官の非番員を召集して一齊に狩立てを勵行したる結果各隊署共に

▲相當の成績 を納めしが本町警察署にては擽て管内を徘徊せる無職の徒にて或は安宿に潜みて賭博などを常習とし居るもの及は所謂金筋と稱する手蔓に就き其の行動を偵察し留き疑込みを取押へて引致したるもの内地人十三名朝鮮人廿一名あり鍾路警察署にても同樣内偵の結果五十四名の浮浪者を檢擧せり龍山憲兵分隊にては密淫者賭博竊盜現行犯人家宅侵入等十餘件あり京城憲兵分隊にては

▲京城市外を 管轄し居ることとて京城より外部へ通ずる大小の道路二十三箇所に九十餘名の憲兵にて步哨線を張り別に一個の搜索班を編成して浮浪者の狩立てを防遏したるが其の結果浮浪者二十七、竊盜、賭博等の現行を取押へたるものゝ約十件、警察行政上の違反者二十餘件ありたり而して各隊署共是等檢擧者を引致し取調べの上處罰すべき者は拘留又は科料に處せり

目に觸れぬ處で

工事の際工夫が身體の自由が利かなかつたり又は專門的知識が不足の爲めに不完全な工事が行はれると電線の被覆が腐蝕したり鼠が嚙つたりして終に大地と絶縁しないで他の金屬と電氣的接觸を來し火花を發し又は電線接續不完全の爲め熱作用を起して遂に大事に至るものである、又就寝時に電球を風呂敷衣類等で包んで置くのも發火を導くものである、それから電氣行火も完全の物を用ゐなければならぬ

▲電線と瓦斯管 とを歩く時にも五十間隔てなければならぬ現に東京株式取引所の火災なども瓦斯管と電線との爲め那の大事に至つたのであるから嚴念の箇所は殊に注意の監視をなし故障ある場合は直に工事を完全にすべきである（京）

代議士引致さる

千葉縣安房郡選出衆議院議員選擧に際し館山町松山樓に滯在中なりし上屋清三郎氏は二十日開票の結果當選と確定し凱歌を奏し引揚げんとしつゝありし際同日午後五時頃刑事巡査の爲め檢事局に引致され爾後七時半頃再び檢事局に送られ同九時復歸したり（東京特電）

小學教師危難

岡山縣津山町小學校教師藤田忍は學校の途中吹雪にて道を踏み迷ひ行衛不明となり目下搜索中（岡山電話）

列車脫線
北陸線杉津驛附近にて列車脫線せり（大阪特電）

街の暮

▽本町通から ◇美しい町飾り ◇一分間に千人

初春までにあと十日、四六時中盆、正月から祭禮の折にさへ、ひつそりと靜まり返つてる市内の官舍町朝鮮人街などを除いては、遍かに歲の暮の京城市中の大路小路どこみ暮の氣分の溢れてゐないところはない、暮の街へ暮の街へ、緊張しきつた、不安さうな、忙がしさうな、恰しさうな、行人の顔を眺めながらさま〲な市中を歩いて見る、歳末氣分の際立つて强く出てゐるのは何んといつても

▽本町通り に止めを刺す一丁目から警務總監部に折れる四辻の四丁目の先きまで一筋道に町内が申し合せた燦びやかな飾り、各商店の軒先きには搖らぐ松月を迎へるやうな繰り生々しい飾り、それに花笠、彩旗、提灯などを配らつての美しさ。

▼景品競爭 店頭に併べたた種々の景品し手に落ちたる當籤者の氏名を報じビラなどが渾然と融け合つてる浮動してゐる顧客の購買心を已に煽つてゐる、大小商店が何十萬人かの手に渡つた何千萬の大半が何處とも無く

▼衝突 警察事故はない

活辯上りの女賊

大分縣北海部郡佐賀市村生れ京城櫻井町一丁目居住活動辯士阿部萬年（二八）といふ女は十月末より若草町重永方に同居中家人の隙に乘じ子供羽織一枚を竊取し十一月初め北米倉町飲食店月の家事堺まつ方に雇はれ高貴の女羽織外二枚を借着して内一部を入質し次は水標町黑澤某方に厄介になり居る内同家の綿繃帶一本を竊取して古物屋に賣却したること發覺し本町署に捕はれ檢事局へ送らる

いよ〱與かの〱來た！
第一回當籤日は十二月廿八日
依て二十二日より廿八日迄に
京城本町　あら鶴や　電話八九〇番

商況

債券現物特電
東京公債直取引
東京期米特電
大阪株式特電
大阪三品特電
大阪期米特電
下關期米同電
雜報

●綿糸布小安し　行ひに現物小安き成　綿布又龍シート一圓二十五

●石油は好勢　出つ可し早晚値上の擧

●植物油高氣配　大阪暴騰の入　白絞油　胡麻油　豆油

●煉乳一部値上

●洋灰は閑散　在品に比較的潤澤

●製菓類の昨今

●麥粉更に引締　更に十錢方引

●精米引返す　一二十錢高の二十二圓五十錢唱

京城正米
仁川期米
仁川正米

▲二十一日前場（不勢）兵庫二十二圓六十九錢大阪天候晴天　東京二十九錢兵庫五十六　五十六錢瓦落　東京二十一錢兵庫六十錢

釜山穀物（二十日）
釜山水產市場（十九日）
市場雜觀
當月限受渡高

●大阪の低落正米不勢は早晚期米の上に大影響

●安値責警戒

仁川米豆取引所
二十一日の二月限

贈答用品値段

仁川米豆取引所仲買人　大五仲買店　店主　猪飼政太郎
仁川米豆取引所仲買人　三仲買店　主任　西川平治郎
仁川米豆取引所仲買人　十仲買店
仁川米豆取引所仲買人　今村覺次郎
叺縄莚　穀物叺及荷造用莚各種　大田本町二丁目　箕浦商店
仁川米豆取引所仲買人　たけ仲買店

大安米　二十一日後場
時（廿一日）

配所の月呪はしきロシア
廢帝と廢后

◆王位も妻子の恩愛に較ぶべからず◆
◆サア前途は獄屋の食事をいたしませう！◆

露都發電の報ずる所によれば西比利亞トボルスクに在る露西亞廢帝廢后及び皇子女をクロンスタット若くばピーターポールに遷しとれ迄に與へられた特權をも剝奪すべしといふ決議が有つたのである。
―その特權といふのは何か。曾ては大露西亞一億八千萬の臣民の上に絶對專政の威に在て君臨したるニコラス二世の此流謫の身に

◆何の特權が 許されて居るだらう、廣い西比利亞の中で最も寒さの酷烈だと云はれるトボルスク！只見る一面の沼澤地で人口は僅に四千人許りの昔から囚人の分逹地として有名だつた寂しい町の粗末な赤煉瓦造の二階に其一家族は幽閉されて居るではないか。その二階には十四の部屋が有る許りで廢帝夫妻を容れるべく二個の部屋がある許り、世が世ならばの皇太子アレキシスには唯の一個、四人の娘には二室が宛てられ、食堂、厨房、婢僕の部屋をいふ風で壁一重を隔て、

◆一の野犬、三人の女中と相伴ふの他も ではないか、階上には勿論浴室も無い、ストーブもない、水道も、電燈も瓦斯もない用水は井戸水を汲んでバケツで二階に運ぶ、薪は毎日一定の量だけを運び上げ怪しげな瓦製の火爐に焚べてこの頃の骨の凍る樣な寒さを凌がなければならないではないか、階下には四百名の監視兵の一隊が嚴しい警戒に銃劍を鳴してゐる、そしてその隊長は萬一の場合必要となれば

◆廢帝を殺戮 する權能をさへ委任されて來て居るといふ有樣で、外出の許されるのは唯一週に二度寺院に祈禱に行く時と錢湯に行く時だけ然も監視は前後から嚴しく付き纏るのである。聞けた監獄の庭もなく、好の廢帝に耕す一坪の庭もなく、毎朝をバルコーンに立つて沼地の果の太陽を眺めるのを樂しみとされるといふ憐れさではないか、其處に何の特權が有らう、唯與へられる物としては年二千圓の手當が與へられる許りではないか

◆無心に照す月下の光ひ 廢帝后の相擁して悲しき追憶を語り、不遇を喞つ情景に到つては寧ろ陰慘の極みではないか、今春三月國難の切迫せる際にも、その慘酷なる一の條件―彼の妃を離別し遠隔の地に遷すべしとの條件を背せずして『余は帝王の位が一時も長く其れに執着せんが爲に妻子の恩愛を犧牲に供すべき程の價値あるものとは曾て思ひたることなかりき、されば余の義務は極めて明白なり、若し露國にして

◆妻子の愛を 犧牲とす可き主權者を必要とせば、余が王位に留る能はざるは極めて明白なり』と云はしめた廢帝と廢后との間の人情は悲しいものであつた。かくて皇后は全國民の怨の的となり、その烈しき迫害は身に迫りせまつては、遂にその恐怖と、危惧の念とは打交りて遂に彼女を精神上の病者に近からしめ漸く廢后は親族を惡み、更に國民をも憎み初めたのだといふ、かゝる事情下の廢帝の名狀し難き苦痛は察せられるではないか、彼は今や極めて沈默に、憂鬱に、考込み勝に、俄に殖けた白髮に、顏色も憔悴して、唯一日二三十杯程の紅茶と、三十本位の卷煙草に忍び難き煩悶の心を遣つてゐられるのだといふ。その間に廢后は痛ましい程の粗食と無爲に益々心を荒ましめられ、出物の云ひ振りに覺らないが其者には常に呪が密まされ毎も
◆皇帝は子女と共に食卓に… 獄屋の食事を致しませう。

◆彼女の言に 從ひて過去の數多き悲しき歳月と、更に未來のかゝる悲しき歳月を除かざりし廢帝をして修むの念切なりしにしめる命運のいかにも悲しきことぞ。かくて廢帝に最近傳へらるゝ特權の剝奪を何の上に爲さうとするのであらうか。呪はしい流謫地の月は底もなく冴えて寒いことであらう！

併しよい時節は直ぐに來ます、私共を此の樣な目に逢はした惡者共に七轉八倒の苦しみをさせずに措くものですか』と言はれるのだと云ふ。―『皇太子の生るゝ直ぐ前、或日妻は余に、退位して露國を去り他國に於て心靜かに日を送らんと最も熱心に言ひ出したる事あり、余は今や其時

南滿製糖の作業開始
一日の製糖量一萬六千八百俵

◇奉天南滿製糖會社にては既報の如く去る十五日工場の試運轉を行ひ十六日午後より愈よ製糖に著手したり、本年初めて植付收穫せる滿洲產甜菜の歩止りは試驗の結果一割三分の好成績にて業の前途頗る有望なるものと認せられたり、試みにこれを臺灣に於ける製糖業に見るも歩止り一割なれば優に一割乃至二割の利益配當を爲し得べき由、此の向きなれば明年は奉天を中心として滿鐵沿線に收穫せる本年作の甜菜は目下日々廿

◇前半季決算 に於ては利益を納め得べしといふ、猶

◇日々五十噸宛 精製すべく一日の精製高百噸、一千百俵を製出すにしていふ因に同社製品を內地輸入品に比すれば一俵につき約二圓二三十錢の運賃及び諸掛りを省き得べく販路は主として滿洲及山東地方にし目下の狀況にては前途頗る曙望されつゝあり

貨車ずゝ奉天工場内に搬送し居れるが年度の總收量は約四千萬斤にして目下一日の原料使用量約五日噸なれば向後一ケ月半にして終了すべしといふ、猶ほ又會社は其後瓜哇及び臺灣より輸入せる粗糖八千噸を右の甜菜粗糖と共に

鬱島釣鱈漁業

本年八月木府庵原技師の調査に依り同島近海には多數の鱈棲息し延繩漁業の有望なるを認められたるを以て同島に於ては同漁業開發の計畫を立てたるも由來同島の漁民は孰れも貧弱にして同事業に著手すべき資金に乏しく加ふるに新規企業の觀念頗る薄弱なるが爲め自ら進んで資金を投じ之に從事せむとする者なく又島內には之等に對し相當の資金を供給する資本家も無き爲め止むを得ず島外より確實穩健なる事業家を招致し以て之れが實行に當らしむる方針にて先般來釜山の漁業家香推源太郎氏より居員及び傭教師を派遣せしめ各漁業者との交涉の末今般同氏と同島漁民との間に契約を締結せしむること、なりたるが同漁業は同島の漁業上等の關係より單に本契約を爲したる者間の自由設定に一任すると共に漁業組合を認めたるに依り

長春特產出廻
附屬地集散盛ん

滿鐵が長春附屬地內へ特產品の馬車誘引の策として諸種の便利を與へ、從來は城內取引所に吸收せらるゝもの、多くありしが特產品搭載の馬車を附屬地內現物市場に吸收せしめつゝあり、時に於ては近來稀なる傾向を示し城內に荷下しする者少く大半は附屬地に入りつゝあり…取引も漸次附屬地に移り、狀況を調査し、各所に於ける鮮魚の棲息を調査し適當に增減するを要するは勿論なるも本年差掛り全島を通じて三十隻に限度とし明年以降は其漁族の狀況に應じ適當に增減する筈なるも目下柔魚釣漁業の最盛期なるを以て漁業者に傳習するには殊に於ける鮮魚の不足を補ふため各所に於ける

今猶ほ城內支那取引所の繁昌を見、前借等の好都合を得るに易きため、る者か然らざる者は金融關係より城內に赴くもの、ある有樣にして、前にも報ぜし如く穀類の城內通過の課税は我附屬地より遙かに重く、附屬地內より城內支那取引所の相場は常に附屬地の其れより割安なるを以て附屬地に荷下しする者多く、斯る狀況に於ては當然なる狀況なり

奉天東亞燐寸
明年一月より開始
池田專務談

奉天に新設された東亞燐寸會社は池田專務曰く『本社は奉天に於ける完成の間際に際し日本に於ける燐寸等重要輸出品の禁止令發布されたれば事業進行上一大頓挫を招かむとせしも幸ひ一部解禁の許可を得て何よりも幸せたり尤も此際に就きては親しく農商務當局を訪問し海外に於ける邦人事業の發展の爲め該禁輸令の特例を開かれむ事を懇願したるに當局に於ても大にこれを諒とし將來邦人經營の事業に限り一部の解禁を許すこととなれり、奉天に於ける燐寸工場は全部支那人を使用するに於て最初支那官憲は工場敷地問題に關しあらゆる迫害を加へたるも先般來燐寸小箱の製造に多數支那人を使用せし結果一般に好感を以て迎へられ居れり、工場の開始期は來る一月五日頃なるが職工は約三百

予は人の爲に法を說かず
大谷光瑞師信仰の一端を洩して曰く

予を信ずる者は僧俗を問はず悉く將來の伴侶である

◆西本願寺前法主大谷光瑞師の還俗に就ては宗徒の間にこそ多少物議はあつたが社會からは何等怪むべき處はなかつた、師の人格が世界的で宗教上の因襲から來る處の拘束を脫しやうとするのは當然の事であるからだ、が宗教上の羈絆制縛を脫したからと云つて直ちに光瑞師の信仰を疑ふのは早計である、過般紫雲玄範氏が臺灣打狗の官舍に光瑞師を訪ひ一般同朋僧俗の心得に就て教を乞ふた時光瑞師はその信仰の一端を洩してゐる

◆曰く予の信じて出世の指導を受けんとする者は僧俗男女を問はず悉く將來の伴侶である、出世の進步發達は組織宗教以前に比し隔世の感あり世界の大勢に對し我國民の本領を全くするに就て指導を求むる者には隨機開導せねばならぬ、出世の一大事は更らに新しき法をも弘めず出離得脫の要法は一に彌陀の本願に全托し自己の智解を離れ一味の法益を共に承し理學的に說き科學的に教へ思潮に應じて宗祖の蹤を踏むべきである

◆この要領の範圍に於て予と共に出世に滿足を得んとする伴侶には臨機接觸指導の勞は厭ふ處でない、予は人の爲に法を說かず法の爲に世人を服せしめんと努むる故に世に往々予を誤解するが人は活ける如くにして死せるもの多く法は死せる如くにして常に生きて働いてゐる、自己の迷妄を覺破せしめんため此間に處するばかりである

◆蠶派を好まず流域を限らず順逆二緣あるも自ら未だ失道せず教に權實あるも局量して未だ得道を失はず佛陀を離れざる人間として常に働き人間を離れざる佛陀を信じて少しの疑念もない、思ふが儘を行ひ言の儘を期待するに過ぎずこれ予が眞俗二諦である、佛陀と認識し信仰し人間と斷定し是認するの外眞俗二諦ある事はない

◆言ふを欲せず只信ずるの外ない說くを好まず行ふを是とするばかりである』と是光瑞師が宗教の理想信仰である、還俗處世の眞義を自ら闡明してゐる。

あの文獻の文字は今まで深山あるといふを記されたものが多く湖南博士は以前滿洲文字で讀んで了つたといふ▲元來滿洲文字なるものは朝鮮の時代に用ひられたもので其後多くの元祖を尋ねると古く蒙古文字に關係があり更らに進んで同記文字とも交渉がある▲斯う押し詰めて來るとモー一つ土耳其とも關係がありといふ所で滿洲と中央亞細亞とは切つても切れぬ關係が有るといふものだ▲博士は北京には七年振りに往つた相だが支那もよい方に於て法部の如き立派なものがある▲それは日本ならば大審院こと見の大理院の院長で國士の著名になる董康といふ人があるが此の人などは實に立派な人で爲あることいふ▲董氏は平素極めて家事には疎い人であるが公務の整理されたことは支那第一で部下にも尊ばれて居る▲支那が萬事に私人を用ひず賢に有爲な人材はかりを集めて居たならば結構ですが…と博士は大に感心して居た▲猶ほ博士と同行の『滿洲發達史』の著者稻葉君山氏曰く▲滿洲と朝鮮は歷史上から見れば同じ土地で▲世界の例に見る鴨綠江の如き河流は國を界するものであると云ふよりも寧ろ密接せしむるものであると（奉天）

▲支那旅行中の内藤湖南博士は十七日北京から來奉した▲博士は去る四十五年の奉天に來ていろんな歷史上の事を調べて行つたがその當時の大切な文獻類はまだ奉天の宮殿內に殘て居たがもその中の大部分は金鑾殿から北京に移されたが調査の價値

富の道しるべ　山縣五十雄　村上唯吉共著　價十五錢　郵稅二錢　京城大平通京城日報社代理部　振替二二〇番

仁川府協議會

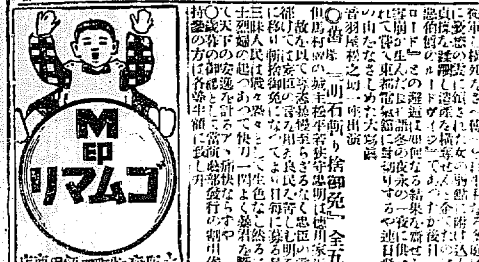
仁川府協議會員は二十一日午後三時より府廳樓上に會合諸般の調査打合を爲せり

正の件の附議に對し全部可決午後三時終了せり

仁川府協議會は二十日午後四時より府廳樓上に於て開催寄附金受領報告所及び大正六年度追加豫算の件に就て附議し更らに商業専修學校豫料

連絡船上陸客

二十日午三等（百八十一名）



大阪廣物町西田商店

演藝案内

本町五丁目　稻荷座
有樂館
浪花館
黃金館　電話二二六三七・二二六六
大正館　電話八七三

歳暮御贈答品大賣出し

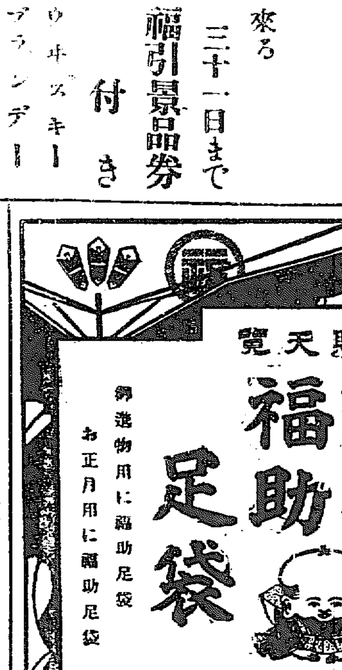
來る三十一日まで 福引景品券付き

ウヰスキー
ブランデー
ビーパーミント
ベルモット
フランス葡萄酒（罐詰箱詰）
千林檎
米國產葡萄
千其他洋菓子種々
景品券一圓毎に一枚進上仕候

京城本町二丁目（元贊化病院跡）
輸入元　大橋商店　電話一九六五番　京城壽町

歳暮贈答品
北海荒巻鮭
本場みかん
ならし漬樽詰
外國製品特製各種取揃申候間御用命願上候
京城旭町　川西商店　電話一三六七番

拂下公告　京城府
一鍾路四丁目八拾番地土地建物來ル十二月廿四日午前拾時入札ニ付拾弐行ス



年の餅の御注文も宜しく願います
京城本町　大和軒　電話四八九番

景品付賣出し　十日より卅一日迄
皮より強い値の安い
專賣品柳製鞄
日ノ丸國旗附屬品
毛布二枚續き
三圓五十錢以上上物色々
防水布マント各種
魔法瓶及中瓶取替
鞄製造販賣
京城本町一丁目　高木旅行用具店　電話一三四番

外科 皮膚科　瀬戸醫院
（診察夜九時迄）
京城旭町二丁目（舊三丁目）電話二四九八番
醫學士　瀬戸潔

■防寒靴賣出し
從來弊店附屬工場に於て製作致し居り候處製品に遺憾の點有之今回弊店內に於て店主監督の下に入念製造致し居候間續々御注文下され度候
羅紗製　一號 毛布裏 一圓八十錢　二號 フェルト裏 一圓五十錢　三號 ゴム裏 二圓五十錢　四號 毛布二重裏
ズック製　一號 毛布裏 一圓六十錢　二號 フェルト裏 一圓八十錢　三號 ゴム裏 二圓三十錢　四號 毛布二重裏 二圓三十錢
靴スリッパ製造所　京城本町二丁目　日東商會　電話二二〇番　振替京城一一九番

清力
釀造元　福岡縣三瀦郡大善寺　合名會社清力商店
京城本町二丁目　清力京城支店
元山　清力出張店
釜山　清力釜山支店
平壤大和町　清力平壤支店

謹告
弊社は多年滿洲並東清行貨物取扱ひ居候處今般朝鮮移出入貨物の取扱を開始致候間何卒續々御用命の程奉希上候
大阪市北區曾根崎新地三丁目
株式會社　日本運送　大阪支店

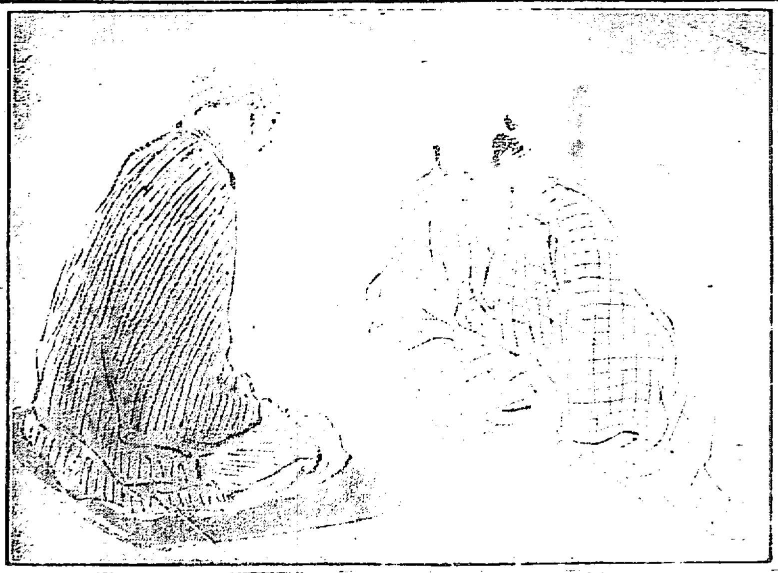
仁川期米

左甚五郎

第百二十席

桃川如燕口演
浪上義三郎速記

親の心子知らずで金六は綿の様になつて何にも知らず白河夜船の高鼾聲、傍に居た母親が長左衛門に對ひ 母『お前さん何うも困りましたね』長『イヤ洵に困つた奴だ、他に道樂は無いが怠惰者で酒好き、幾ら云つて聞かしても稼業には手を附けず暇さへあれば畫ばかり描いて居る、人間は何になつても宜いが畫工などになつて生涯貧乏で暮す樣ではつまらない、それも禁裏御用畫工とか將軍家の止筆といふやうになれば結構だが却々普通の者ではなれない、猶是蛙の子は蛙で代々續つた染物屋だから分家をして兄貴と與に稼業を一生懸命に遣ればそれに越したことは無い、第一僞う酒に心を奪はれて稼業は打棄れて寢るやうなことでは何になつても仕樣が無い、今も今とて奉公人共の惡口、それを聞いて居た俺の心地はどんなだと思ひなさる、可愛い子には旅をさせろといふことがあるから、一時當人を懲めの爲に家を追出さう、他人の中へ出て揉まれたら少しは辛抱も出來やう、酒だつて思ふ樣には飲めず自然慎む樣になつて世渡りの六ケ敷ことが判るだらう、他の子供達や奉公人の懲戒がつかないから懲めの爲に勘當しやう』と夫婦相談をして勘當をすることになつた、金六はそうとは知らぬ金六が心地快く寢て居たが、暫く經つて目を覺し 金『アヽーイ、あゝ快い心地だ、誰か水を持つて來てくれ』長『コレ金六』金『イヤ是は阿父さん』長『阿父さんでは無い此處へ來なさい』金『水、水を……』長『何だ水だ貴樣は何處へ行つてそんなに酒を飲んだのだ』金『へエ』長『今阿母さと種々話しをして居た處だが、呆れ返つた奴だ、親のお蔭で何に一ツ不足なくして居るものだから増長して我儘の仕ほうだい、既に今日といふ今日は愛想が盡きた家へ置く譯には行かないから早く出て行け、兄さんはあの通り大勢の奉公人の中に交つて働いて居るのに弟のお前は朝から晩迄酒びたし何しても貴方を家へ置くことは出來ない、勘當をするから出て行きなさい、それとも改心をして以來は兄さんと一緒に働きますと云ふなら、何しても家へ置かないとは云はない、改めるか何うだ』母『さア金六や阿父さんの仰る事は少しも無理は無いのだよ、以來行ひを改めて兄さんと一緒に働くと云つたら宜いだらう、何にもお酒を全然飲んでは叶けないと云ふ譯ではありません、好きなものなら一合や二合飲んだ處で差支は無いがお前は飲むを通り越して溺る樣なのですから困ります然う毎日の樣に二升三升と飲んでは叶けません、終に身體をこはしてしまひます、そればかりでは無い然ういふことでは迚も出世は出來ません、心を改めて阿父さんに能くお詫をして家へ置いておもらひなさい』金『イヤ何とも申し譯がございません、宗三郎兄に能く學りました、然し阿父さん人といふものは其の國々が違ふ如く共に心も皆な違つて居るものでございます從つて好む心も違ひます兄さんは幸ひ家代々の稼業を一生懸命に勵めておなさる、私は次男のことで分家するか他へ養子に參りまする者、自分の好む道に入つたら宜からうかと思ひます、第一酒を慎めと仰いますが、一杯の酒を飲んだ時の心地は何んとも云ひ樣がございません、人間一つの樂みが無ければ叶けません、何うも酒を止めるといふことは六ケ敷い、又二三升の酒を飲む者が一二合で備に合はせろといふのは無理な話し、私も當家に居りまして齒を思ふ樣に擶くことも出來ず洵に窮屈でなりません故、それではお言葉に從ひまして當分の間お暇を頂戴いたします』と金六は却々改心の樣子は見えません



新築落成
京城明治町二丁目
入院隨意
胃腸病院
院主 醫學士 佐々木杏造

外科一般 皮膚科
泌尿器科 花柳病科
院長 安部修三
京城永樂町二丁目金光教會隣
安部醫院
電話四一九番

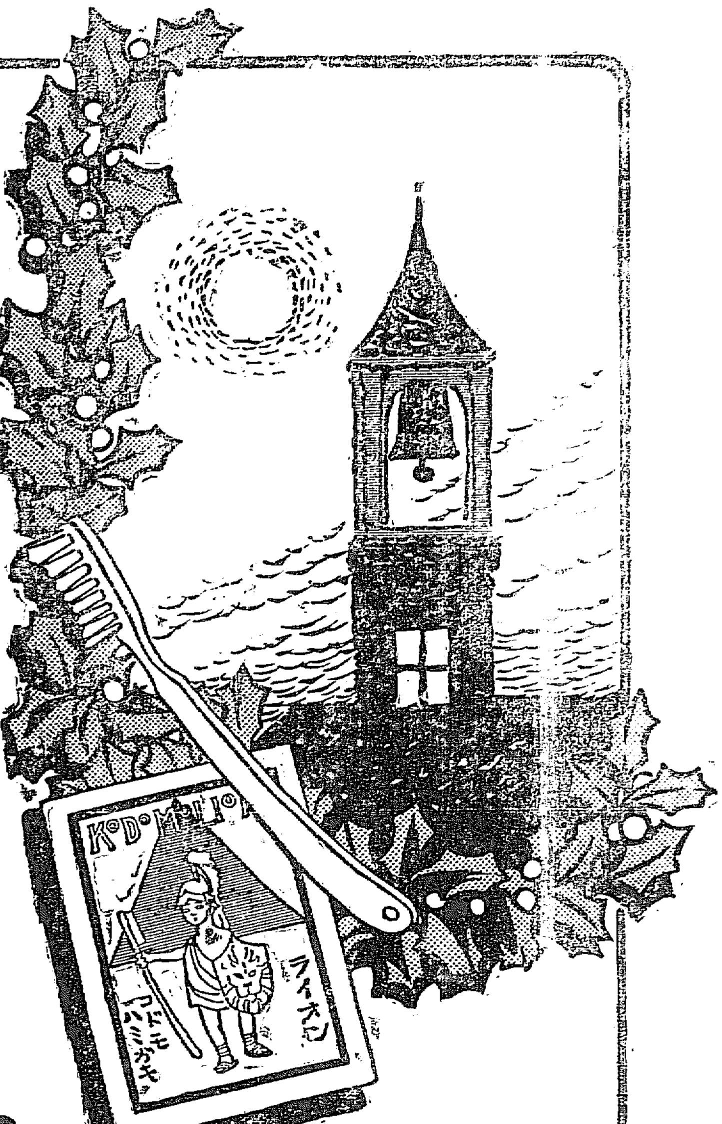
御贈答用に萬人向の
メリヤス類は
(イ) 鈴木支店
京城本町一 電話一八七二

曆

十二月廿三日九星
舊十一月九日己亥
木命九紫 南開 先勝

▲九紫● 取かへしのつかぬ事有り新事見合西方は吉賭物商▲一白● ふと一ぱい喰はんとす新事手控へ妻は吉買物に用心せらるべし▲二黒● 順利の日移居入家求職勧誘株上金件婚姻▲三碧● 望に叶日移居開業行商名引求職金件婚姻交物許諾皆吉▲四緑● 律のよき日移居旅行出發名引運動婚姻大なる金融を計る等皆吉▲五黄● 大美の日ふさ立身出世の道に出ず萬進で吉待人商音を傳へ來る▲六白● 不慮の事有り新事手控商は吉衛生に注意せらるべし▲七赤● 損益五分五分の日なれども新事控目の方吉 事掛を飾るは吉▲八白● 運開發ー移轉旅行人身名引金件求職紳士工商皆等萬吉物に好の日

周易
明治町三丁目
介石堂
岡村介石



ライオン子供歯磨

お部屋の中には赤や青の蠟燭が點いて、
樂しいクリスマスの鐘が鳴ります。
さてさて、――
愛らしい坊ちやん嬢ちやんへの
クリスマスの贈物は、
一番お体の爲めになる
ライオン子供齒磨
完全消毒『萬歳』齒刷子(子供用)
になさいませ。

東京本所區外手町
ライオン歯磨本舗 小林富次郎
ライオン石鹼

(859―6)

肺藥 責任販賣
[illegible]

流經新藥レスノリン
月經流經
閉止四ケ月以内に於て本品の作用は確實にして容易く…
發行所 常盤藥院
大阪北區…

りん病
自宅で消毒 他人に秘密で病氣全治
なをす家傳秘法の妙藥あり…
名古屋市南かじや町 武藤亀吉

健胃消化錠
ゴルフ
タカヂアスターゼを主藥とせる胃腸の新製劑なり
東京芝町 森田製藥株式會社

ホーナサン
[illegible]

白粉中の白粉、塗けて白さが異ふホーカー白粉
普通のおしろいとは…肌の生地からうつくしい白さに塗く外にない美容劑
本舗 東京和泉橋 …商店

冬の家庭の常備品
ウヅマキ石鹼
ツルハシ一に、肌を清く且つ丈夫にする
主婦の家政は洗顔料の吟味に因て始まります
東京山町 天野礎五郎

汽車 京釜線 京義線 京元線 京仁線 湖南線 [illegible]

京城日報　第五版　二十二日　（朝刊夕刊併せて八頁）
發行所 京城太平通二丁目 京城日報社

支那漫遊

蘇州より曲阜

蘇峰生

蘇州停車場を發したるは、已に十一月廿四日午前一時過ぎなりき。寢臺車はなく、洋服の儘、毛布を纏ひて假寢し、午前七時に南京下關に下車。直ちに聯絡船に乘り移る。支那旅行中、最も不愉快なるの一は、汽車、汽船の降昇の場合也。苦力の喧噪、役員の不親切、何人も癇に障られぬものはなし。漸く聯絡船に乘れば、船の周圍には、乞食船幾艘か、予等の鼻先に棒を突き出し、其端に袋をぶら下げ、頻りに金錢を投ず可く、強請しつゝあり。一船去れば、一船來る。小供あり、老嫗あり、或は若者あり、壯婦あり。乞食商賣も、一種の營業と見れば、致方なし。支那旅行に當惑は、南京蟲と乞食也。されど予は寧ろ南京蟲を以て、忍び得可しとなす也。

浦口に著すれば、津浦鐵道の終端也。一等室には、空席の儘、固く鎖して開かず。車掌を要して漸く開かしめ、之を占む。同じく一等の支那乘客の一人、車中の喫煙室にて、硝子窓を明窓と誤り認め、無遠慮に頭を突き出し、落花微塵に硝子を破り、併せて其の面を破りたる抔、彼是笑止の事件ありて、漸く發車したるは、午前九時過ぎなりき。

此の線路は、江蘇省より山東省を貫くものにして、途中何等風致の見る可きなく、唯だ北上するに從ひ、木葉の漸く疎にして、地味の磽确なるを認むるのみ。曲阜には、豫て約し置きたる如く、田中君の濟南より來りて、待ち合せつゝあるならんと思ひ、午後十一時前下車すれば、其影だになし。扨は何かの間違ならんと思ひ、驛員に相談し、其の案內にて、滿天の月影を疲れたる背に負ひつゝ、附近の宿泊所に避けり。此れは西洋造りの空屋にて、二室あり、室には木椅子數脚と、寢臺二個、卓子一個あり。固より寢蒲團さへなし。予等は鐵網の寢臺に毛布を敷き、外套を被り、兩人一寢臺に、雙方より雙趾を打ち交へ、一夜を明かす可く支度せり。而して[illegible]にも、闇外に日本人の聲あり、[illegible]は其人を見る迄もなく、若林田中君ならずやと云へば、[illegible]君は汽車の著するや、否や、予等の寢臺車に尋ねたれども、不在のため、近傍の支那宿に引き返し、更らに驛員に質して、日本人の下車したるを聞き、或は予等ならんと猜して、此處に來りたるなりきと云ふ。予等下車の際、若林君は田中君と相見たりと雖も、從來兩人互ひに相識らざりしが爲めに、此の如き齟齬を生じたりとの事情は、其の互ひに語る所によりて、始めて分明せり。乃ち明朝を約して、予等は此の野中の一軒屋に、一夜を明せり。寢具なく、食料なきは尚ほ可也。手傳人もなければ、使用人もなき宿泊所は、洵に妙也。吾人は、一人一弗宛の宿泊料を、停車場に拂へり。是れ今回旅行中の頗る珍にして、且つ奇なる一夜なりき。

孔林

十一月廿五日、午前六時過ぎ、田中君の來り誘ふに從ひ、同君の支那宿に抵り、此處にて麵包の一片を嚙り、支那馬車にて發す。予は田中君と同乘せり。此れより曲阜迄は、六哩にして[illegible]也。道路は霜雪の如く、麥芽青を抽す。道路車轍深さ一尺餘。雨中の泥濘想ふ可し。馬車はゴトゴトとして頗るを打ち、腰骨を[illegible]めつゝ行く。乍ち暗色の東天に閃くを望む。聽て紅輪は杲々として、平野の中より上る。恰も大海の初日を見るが如し。行て一個の村落に到れば、川あり。此れ四十年耳熟したる泗水也。一個の沙川にして、水は淸淺也。今や假橋あり、徒涉を要せざる也。而して日出の方に一大森林を認む。是れ孔林也。孔夫子の墳墓也。其の右邊に、孔夫子の天に續くは、是れ大成殿也。孔夫子の邸趾にして、今は其の靈を安置する靈廟也。

李舍蕭條泗水潯。馬蹄一路[illegible]。深隱光當西天如海、紅[illegible]。是孔林。

此れより洙水を渡れば、已に孔林の門前也。洙水は殆んど躍りて越ゆ可き小溝のみ。孔林は一に至聖林と稱す。其の周圍に墻壁を繞らす。面積六十萬坪と云ふ。予等は孔林の中を貫き、一直線に[illegible]を過ぎ、孔子の墓前に至れり。兩側は勿論、一望森林、概ね[illegible]柏、[illegible]の類也。孔子の墓は、[illegible]二丈餘の擂鉢形の圓塚にして、其の周圍には、楷、[illegible]、檜等あり。墓には秋草枯れ果て、滿目凄涼唯だ寂しく、『大成至聖文宣王墓』の墓碑の立つを見るのみ。孔子を[illegible]して、[illegible]の主となしつゝある支那人が、孔子に對して何等の神明的敬虔なく、其の維持保存的熱情なきは、意外と云はん乎。意外と云はん乎。唯だ孔林の役人共が、其の參詣者に對して、五月蠅く案內料を要求し、[illegible]緊くを知らざるは、何れの聖地、名所にも、珍らしからぬ事ながら、頗る孔子に對して、恥辱の至り也。中華民國政府たるものは、其の入場料、案內料を規定し、之を以て孔林修治の費用の一端となさば、是れ一擧兩得ならん歟。

孔子の墳墓や、其の子孫の墳墓や、其の宏大壯麗なる享殿や、歷代の石碑や、皆な吾人の心を動かすに足らず。但だ其の古柏の老柯蜿蜒、樹幹撑曲、殆んど千年の語ありさうなるものに對しては、何さなく之を仰ぐを禁ずる能はざるものあり。革命何にか、一切を破壞する支那に、此の如き遺物あるは、是れ亦た孔子の恩惠ならずんばあらざる也。

大成殿

孔林を辭して、古柏の並樹の道を一曲、曲阜縣城に入り、顏子廟を見る。陋巷に安住したる顏淵には、過分の大建築也。庭に虎皮松あり。壁子たる老幹、四人の合抱を要す。幹の中程より枝柯四方に分れ、一樹一森林を爲す。北京に於ては、虎皮松少からざるも、此の如き巨樹は未曾見也。顏子廟前の小居にて午餐し、孔子廟に詣す。廟は孔子の宅趾を中心として成る。門前に孔子の子孫たる、衍聖公の邸宅あり。孔子廟の莊嚴は、一大宮殿の觀あり。其の周圍凡そ十町餘にして、其中に門あり、樓あり、碑亭あり、碑あり、檜あり、而して其の建築物の最も大なるは杏壇と大成殿也。杏壇は七十四呎、[illegible]九十呎、奧行五十五呎、是れ孔子が群弟子を敎へたる遺蹟と稱す。更らに進めば大成殿あり、高さ七十八呎、幅百三十五呎、奧行八十[illegible]

[illegible]然るに汽車は約束の時間に、一時間遲れて來り、泰安府停車場に[illegible]したるは、五時に近き頃なりき。此れより一輪車に乘り、直ちに泰安府に抵り、直ちに泰山に登る支度に取り掛れり。一輪車は中央に一個の車輪あり、其の兩側に、人若しくは物を載せ、左右の手にて二本の梶棒を持し、一人にて之を押し行く也。如何なる險路にても、頗る顛覆の心配はなし。杜樊川が、石逕斜なる處に、車を停めて楓林の晚を愛したるは、恐らくは此の一輪車に乘りての事ならむ。予は生來始めて之に乘りて、頗る愉快を覺ゑたり。

（大正六年十一月廿七日朝　濟南府山東ホテルの樓上に於て）

朝鮮古墳の變遷（十九）

八木奘三郎

古墳の外形と其起源（承前）

支那古代の住居は穴居なりとの說あり、隨て家の字、穴の字、宇の字、室の字及び宮、窟、窯、竈等の文字は皆な此の穴居[illegible]を附せり、此は[illegible]にて八と書し、元來穴居の地上に覆ひて家根の形ちを窺せりと云へり、而して右は又八とも書して上部の點は空氣貫きの孔を示せしなりと云ふ、若し然りとせば穢種族の風に類する次第なるが、孰れにせよ屋根に八字形あるは面白き例にて、後世の支那アーチ形の本源は一に茲に發せしやの觀あり、又詳細に見れば[illegible]

[illegible]

に上述ふるが如く支那古墳の外形には大略五樣の別あり、而して其中方圓の二種に限られ[illegible]唯だ先史時代の分のみは彼の机石の風を模せしやの觀あり、然れども[illegible]

どうして（二十一）

布施生譯

[illegible]おや／＼、又何の事[illegible]娘に別れて、園栖は[illegible]

[illegible]一瞥、武烈氏はアルパカの肩掛と云ふ女を見ると蛇度目をとめる癖があるが、それから見ると此娘は洗ひざらしの色褪た古布子に萌黄更紗の風呂敷を小脇に抱込んだ處、これがどうして武烈氏の眼を惹いたのか、園栖は[illegible]一目なりとも娘の顏を見てやらうと足を早めたが娘は又武烈氏に會つてからと云ふもの[illegible]んでゆく、園栖は到底[illegible]ではないと斷念して[illegible]小走りに驅出さうとした其途端、[illegible]何處か工場の歸途と見ゆる、[illegible]ら／＼と出てきた何十人と云ふ職工小僧の一群に隔てられて、園栖が氣を急く甲斐もなく娘の姿は薄暗がりの夕闇に消えてしまつた、[illegible]娘は何方へ往つたものか影も形も見ゑなかつた、園栖はもう仕方がない、せめての心遣りに[illegible]ぐに裂けた布片を拾上げて[illegible]に改めた上紙入に收めて宅へ歸つた、さて之が又何の手懸りになる事やら。

時計貴金屬指輪眼鏡商

一年間の御禮の爲

勿驚破格大賣出し

京城本町二丁目　京城銀鍛行前

三浦天龍堂

寫眞
京城[illegible]
寫眞銅版　亞鉛版　出張撮影　[illegible]

[illegible]

御歲暮[illegible]

新溪里出張所
[illegible]

明治大正文學界の飛將軍
卅年間心血結晶の傑作集
蘇峰 德富猪一郎監修
（民友社發行）

愛山文集

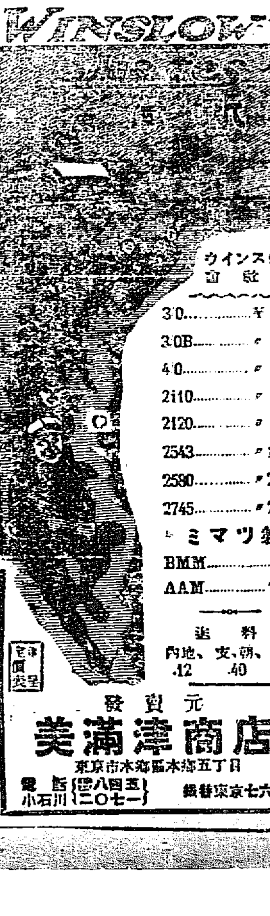
定價金五圓　特價金四圓　郵稅二十四錢

山路愛山氏は明治大正文壇に於ける飛將軍の隨一人也。氏の文、世路に定評あり、明治其筆端の自在にして其趣味の多方面なる、其學識の該博にして其觀察の奇警なる、何人も驚嘆せざることなし。其の三十年間の文壇的生涯に於ける幾多の述作は、等身の字も未だ盡さゞる不幸にして大志を齎らして長逝すと雖も、其一代の文運に貢獻寄與したるもの何ぞ尠少なりと謂ふ可けんや。本書は氏が一生の述作中其精を拔き其粹を萃めて[illegible]『女學雜誌』に掲載せる『英雄論』に就て明治二十三年より大正六年末其死前一月迄稿を續けたる其史論、人物評論、時事論策、[illegible]二百有餘を以て之を終る[illegible]或は紀行等[illegible]其史眼の[illegible]に重きを如きも[illegible]或は天才[illegible]小羅せざるなく[illegible]一愛山の名を永遠に[illegible]を傳へたり。請ふ一本を購ひ天才奮闘の痕を此裡に驗せんことを[illegible]といふを憚らず。

發賣所　京城太平通二丁目　振替京城三〇〇番

京城日報代理部

WINSLOW'S



ウインスロー　[illegible]

3.0	¥4.60
3.0B	4.85
4.0	6.00
2110	4.00
2120	6.00
2543	12.75
2590	24.50
2745	24.50
ミマツ製	
BMM	3.50
AAM	10.00

送料　內地 .12　支、朝 .40　樺太 .30

發賣元　美滿津商店
東京市本郷區本郷五丁目
電話 小石川 八四五 二〇七一　振替東京七六〇

改訂增補

東京帝國大學文科大學教授 文學博士 芳賀矢一
東京女子高等師範學校教授 文學士 下田次郎
兩先生編纂

家庭の女王嫁入調度の主品—特に高等女子教育を受けられし諸孃に薦む

日本家庭百科事彙

極美 美術製版圖畫三千七百餘
各種五千部限　特價金拾圓（定價金十五圓）
月賦拂特價金十二圓　詳細見本
送料 內地不要、臺樺半減、金三十錢　鮮支半減 金三十五錢
索引 全二冊　附大本（菊判革背 千六百頁 千十六頁）

質の精、形の美、價の廉も揃ひて揃ひたる
品の女王嫁入調度の隨一は是れ
萬の家庭に愛用され日夕無限の便益を供しつゝある本書の信用は絕對的に確立せり
家庭實用全國十七部を提供したるに、久しき間の熱望は大河の決するが如く殺到し刻々に倍增す、乞ふ先づ內容見本を請求せられよ
瞬時も早く此の幸福の原泉たる本書の眞價を確認せられよ

內容見本進呈　往復葉書申込
東京神田　冨山房　振替五〇一

東露の形勢

▲北滿を恢復すべく 總統府會議にて決定

支那政府は露國擾亂に乘じ此の際東清鐵道沿線に於ける露國の勢力を驅逐し東蒙北滿の一帶を完全に支那統治下に收む可く十九日總統府會議に於て廟議決定著々之が準備を進めつゝあり(北京特電)

▲ホ長官も總領事も ▽支那兵の保護を受く

支那兵約三百名はホルワツト將軍の官邸及び主要官衙を保護し機關銃を列べ警戒嚴重なり又吉林交渉署には露國總領事ホホフ氏館員と共に移轉し來り總領事館を假設せるを以て二十日支那兵二百名保護の爲め來れり(哈爾賓電報)

▲支那側過激派を威嚇

吉林軍第三旅團長陶常貴、濱江道尹施紹常兩氏は人民慰撫の布告を爲すと共に過激派會首領リウチン氏に對し若し東清鐵道を占領せんとせば條約違反なるを以て支那軍は鐵道を守備す可き任務を有すとて暗に攻撃を加ふ可き旨仄めかせり(哈爾賓電報)

○小露西亞共和宣言 ▽全露聯邦共和國の一部

小露西亞議會は小露西亞はキエフ、ポトリア、ヴオルヒニア、チアーニゴフ、ポルタウア、カルコフ、エカテリノスラウ、ケルソン及びタウリタを包擁する新全露聯邦共和國の一部を形成する民主的共和國なりと宣言しつゝありクルスホルム及びオロネスも亦其住民が孰れか決定せば其の聯邦に編入さる可し(倫敦電報)

○露軍全部撤退す

二十日發=露軍は全部撤退するに決せり(露都電報)▲露軍は北部戰線を撤退しつゝありと(露都電報)

○ケ氏露都に逼る

ケレンスキー氏は今や數千の手兵を率ゐて露都に迫りつゝあり(露都電報)

○英國の新設官廳

英國は今回商業上の情報に關する一局を新設したるが同局は海外貿易發展情報局と命名する旨發表されたり而してウイリアム、クラーク氏は同局總裁に任命され前拓殖局在勤エフ、ジー、バトラー氏海外部長に任せられたり(倫敦電報)

○米造船八百萬噸

米國船舶局長官ハーリー氏は言明して曰く今や米全國に於て八百萬噸以上の船舶建造中にて右造船は特に太平洋沿岸造船所にて其の造船速力を增加せしめつゝあり(華盛頓電報)

○諸株一齊に暴落

株式市場は鐵道問題の形勢に對する悲觀と不安定の爲め諸株一齊に暴落せり(紐育電報)

群山

▲役員選擧 群山穀商組合にては十七日同組合事務所に於て[illegible]林、松坂、花岡、吉永、日高、中谷、落合氏等を擧たり▲署長招宴 寺島前群山署長の後を襲ひ來任せ[illegible]▲評議員會 既報群山商業會議所臨時評議員會は十五日午後大阪商船代理店事務所樓上に於て開催大[illegible](三)群山驛鐵道引込線延長方の希望の件も大[illegible]三名を委員に擧げ運動方を一任し[illegible]

○紐育諸株下落

紐育株式市場は鐵道問題の形勢に對する悲觀と不安定の爲め諸株一齊一ポイント乃至四ポイント方下落せり(大阪特電)

○全國船主大會 管理令緩和を決議す

二十日神戸に於て全國船主大會開催せられ船舶管理令緩和に關する決議をなせり(東京電報)

○三島丸歸着

郵船歐洲航路船三島丸は二十一日無事神戸に歸着せり(神戸特電)

○關東都督歸任

中村關東都督は二十日午後十時零中丸にて著連大和ホテルに投宿し二十一日午後一時大連發旅順へ向け歸任せり(大連特電)

○理事會頭歸連

滿鐵理事[illegible]、大連商業會議所會頭相生由太郎の兩氏は二十日午後十時零中丸にて歸連せり(大連特電)

○新上將一行 著連

支那觀戰武官新上將一行は二十日午後十時零中丸にて著連せり(大連特電)

○滿洲新入營兵

奉天駐在第七師團第二十六聯隊の初年兵一兩大隊は十日午前十一時[illegible]驛着滿洲の現役隊兵舍に入れり尚今回遼陽の聯隊の初年兵も二十一日同列車にて到著せるが一同北海道地方の現役隊出發以來途上及び汽車中共頗る元氣旺盛且つ何れも北海道の健兒なれば滿洲の寒氣には平然たり(奉天特電)

◎哈爾賓は案外平靜 過激派も輕擧はすまい

前露亞松田銀行部長 木原小平氏談

長春特電=二十日夜の急行列車にて哈爾賓より京城へ向ひたる前露亞松田銀行部長木原小平氏は哈爾賓の現狀に就き語りて曰く哈市は今にも戰場となる如く傳へらるゝも事實は左程危險に迫れるに非ず十九日哈市過激派首領リユウチン氏とホルワツト將軍との間に東清鐵道沿線政權讓渡の▲交渉は斷絶せるも直に兩者の間に戰鬪起る可き形勢なしリユウチン氏は過激派政府の命令を俟ち行動すと稱し居るも哈爾賓にて騷動を起さば外國の交渉あるを豫期して決して輕擧せざる可し領事團の意見も若し何事か起る事あるも決して外人の生命財産に危害を加ふる事無しと斷言し居れり只支那側が騷ぎ立てゝ五百名の支那兵は十九日より三十間毎に二十二名宛を街道に配列し▲警戒物々しきも幵は支那政府の外交政策ならんと解せらる居留邦人は皆安心し居りて實際の哈爾賓は案外平靜なり只諸言語は盛に行はるゝも帝國出兵の要を認めず支那人は支那兵多數入込めるより猶豫の色あり

○上半貿易

輸移入超過百廿三萬餘圓 累計一億七千五百餘萬圓

十二月上半月に於ける朝鮮貿易は輸移出品價額四百四十七萬二千五百五十六圓、輸移入品價額五百七十萬九千八百三十二圓合計一千十八萬二千三百八十八圓にして即ち百二十三萬七千二百七十六圓の▲輸移入超過なりとす今之を前年同期に比するに輸移出に於て九十八萬八千二百八十六圓輸移入に於て二百八萬九千二百六圓合計三百七萬七千五百四十六圓の增加を見たり而して本年一月以降の累計は輸移出七千八百五十八萬五千七百七十圓、輸移入九千六百七十萬九千三百四十圓合計一億七千五百二十九萬五千百十四圓にして前年同期間の貿易總額一億二千九十萬二千五百八十一圓に比し實に五千四百三十九萬二千五百三十三圓の激增を告げたるが然かも輸移入超過額は昨年の累計一千九百五十五萬三千九十圓に對し▲本年の入超一千八百十二萬三千五百六十六圓即ち百四十二萬九千五百二十五圓の減少なりとす以て朝鮮貿易の漸次好調に趨くを見るべし今本月上半に於ける重なる輸移出入品及び其價額を擧ぐれば左の如し

▲輸移出

▲米二、一六三、三二七圓▲豆類五二、四六七六圓▲棉花四〇七、一五四圓▲亦石五五、九五一圓▲黑鉛八三、一〇八圓▲銀及び銅銅一一六、一一九圓▲牛皮八九、七九九圓▲生牛八七、四〇三圓▲肥料四二、二二四圓

▲輸移入

▲米二一、四七九圓▲粟三七、四四九圓▲小麥粉四六、五九七圓▲食鹽二一五、四九四圓▲石油二四七、三三四圓▲生金巾及シーチング一、〇〇〇、八〇七圓▲晒金巾一七〇、七九圓▲天竺布一一、三二八圓▲日本木綿一九一、四四五圓▲毛織物二〇、〇三一圓▲絹織物三二、七九八圓▲紙一九四、六三八圓▲砂糖一一六、〇五圓▲鐵筒及鐵管一一七、二九二圓▲軌條一五、四四四圓▲石炭三八、〇九九圓▲木材一三六、八圓▲セメント八二、三二〇圓▲叺五一、一四圓

右の內米は一月以降の輸移出高一千五百六十五萬二十八圓前年同期に比し九百二十四萬八百八十圓を增加し棉花三

十三萬五千百二圓の輸移出にし同じく二百五萬八千五百二十七圓を增し其他相應の增加を見せるも銀鑛及び炭鑛、牛皮、皮革製品等は甚だしく減少せり尚輸移入に於ては綿織絲の輸移入累計四百四十萬五千五百十三圓(前年同期に比し二百八十八萬六千八百九十五圓の增加)生金巾及びシーチングの同九百九十七萬一千五百四十三圓(同六百五十七萬四千百四十圓增加)等を主なるものとし▲鮮内購買力の增進顯著なるを示し輸移入の前月に比して減少したるは綿織物、食鹽、生糸皮等數種に過ぎず

◎金銀輸移出額

十二月上半月に於ける金銀移輸出額は金貨及び金地金十四萬六千二百三十七圓、銀貨及び銀地金二百圓合計十四萬六千四百三十七圓にして之を前年同期に比較するに金七十八萬六千七百六圓、銀八百八十八圓の大減退なりとす又輸移入に於ては金一千五百三十九圓、銀一千三百十九圓合計二千八百五十八圓にして是亦前年同期に比し金銀合計二十萬三百八十二圓の減退に終れり

◎繩叺製造獎勵

京畿道廳にては管内繩叺製造獎勵の目的を以て本年度内恩賜金より補助を與へ二十郡に亘り六百五十臺の莚織機を配布の事既報の如くなるが此の內主要なる水原振威安城、南陽長湍江華諸郡へは道より技術者を派遣し郡の技術者と相俟て製造方法を指導し以て其の形狀の統一を計る外道内十箇所に繩叺組合を起し此所にて管内の製品を取纏め之が販賣を爲す等なり近時繩叺の騰貴に連れ繩叺の價格頗る騰貴を示し居れば農民の之を副業とする者漸く增加し水原江華郡にては年內約百萬枚の叺を製造すべく烏山の小邑にても本年內約十萬圓の製品を出し其の成績見るべきものあり目下の相場を以てせば一反歩より籾三十圓の收穫あるに對し叺は二十五六圓の産出ある計算なり

◎農銀株好氣配

各農銀の併合實行され朝鮮拓殖銀行の新組織を見る事略ぼ一般に知了せらるゝや各農銀の株式は若干の氣配を有ち來れるが現在の株主は多く前途を見込んで手放さゞるため其の賣買は比較的少數なるに似たり

◎北方側妥協に傾く ▽張懷芝のみ反對す

南方の重鎭陸榮廷、唐繼堯兩氏が南北休戰及び和議の甚だ急務なるを馮國璋氏に打電し來り北方にして誠意を以て應せば兩廣の自主獨立を取消すも可なりと提議せる爲め馮總統は十九日總統府に緊要會議を開きたるが段祺瑞氏は出席せざりしも段芝貴氏代りて列席し大勢休戰妥協に傾きたるが張懷芝氏が同日天津より入京、今日に於て出兵討伐は中止す可からざる旨を述べたるを以て未だ決定せざるも督軍連多數の意見は今日の大勢休戰妥協の賢明なるを認めたる如し大勢の進展斯に至りたるは次ぎの數個の理由に基くものなり(北京特電)(一)最近外交上の急變即ち露獨休戰講和、支那軍の歐洲出兵、支那軍の東清鐵道沿線出動、(二)軍費支出の困難即ち鹽稅の流用及び借款の兩者共に不可となりたる事、(三)汕頭及び潮州陷落に引續き福建の危急、(四)湖北各地の獨立、(五)江蘇、江西二督軍の調停

◎湖南統治準備か

譚浩明氏は十七日長沙に入り愈々南軍が湖南に統治機關を設置する手筈成りたりと解せらる(長沙特電)▲譚浩明は十八日長沙に到著せり(北京電報)

◎廣東の秘密會議

廣東督軍代理莫榮新氏は廣東に秘密會議を開きたり(廣東特電)

◎講和問題討議 二十五日獨議會にて

伯林來電=獨逸帝國議會は講和問題に關し二十五日(聖誕祭當日)の本會議にて討議する事となれり(ベルン電報)

◎移出牛專用船

釜山赤崎半島に在る朝鮮移出牛檢疫所[illegible]季節は風向惡しき爲め帆船は從前[illegible]餘頭に達し居るの有樣なり然るに近時船腹不足し居るのみならず多頭を積載して一箇月に五回往復を爲し得べしと[illegible]なりたり同船に一時に二百三十頭[illegible]

◎[illegible]製造

[illegible]九枚にして本道指定叺種製造者五戸の販賣用として製作せるもの藁叺千四百七十五枚自家用として製作せしもの四千八百三十二戸にして春窯三千五百五十枚[illegible]見合せたるもの多きに由り而して在來種は年々激減しあり(成興)

◎九百圓捲上ぐ

慶北達城郡[illegible]日二百八十圓を受取りたるを手初めとし爾來數回に合計九百十圓を騙取して同地警察署に引致され取調の上大邱地方法院に送[illegible]

◎兼二浦荷役不能

大同江上流に於ける流氷は數日來の寒氣と共に漸次下流に降下し兼二浦碇泊船地の如きも既に數日以來流氷盛にして荷役危險となりしを以て三菱用石炭搬送丸の如きも荷役半ばにして鎭南浦に引返し同地に於て荷揚を了したりと(鎭南浦)

◎鐵道倉庫開業

十五日より京元線金谷驛に於て又二十五日より京釜線永同驛京義線汶山驛に於て倉庫營業(當分の內野積保管に限る)を開始する事となれり

◎保安課長の講話

二十日午前九時憲兵隊將校集會所に於て國府保安課長の體育に關する通俗講話ありたり

人事消息

▲笠井[illegible]三氏(小野田セメント會社技師長) 二十一日夜退京
▲八野井男氏(全羅北道技師) 同上
▲服部平氏(平安南道技師) 同上
▲佐藤政次郎氏(平安北道技師) 同上
▲木原小平氏(前露亞松田銀行部長) 二十一日夜入京不知火旅館へ
▲池邊龍生氏(元山土木局出張所長) 同上
▲岸秀次氏(慶尚北道技師) 廿一日夜元山へ

□百鬼百種□

今回の地方官大更迭に佐賀縣知事になつた大芝惣吉君は檢事から代議士其れから新聞記者迄勤め上げた强の者である▲其のせいか身體の瘦せた眼の鋭い見るから辛辣さうな風貌をして居る▲處が意外に風流才子で殊に茶の湯は物心宗匠と號して本職以上だから驚く▲物心とは珍號だと聞て見ると惣吉の惣の字を二分したのだとは知人の談▲佛國ミユーズ病院に一千名の女人院患者が居る皆十八才未滿の女だが何れも娼婦其中百人は發狂して狂い廻つて居る處は悲慘の極之れも顛倒文明の餘弊か可恐▲米國の山中にて此程發見されしスカンクと稱する獸族は其皮は防寒用として珍重さる▲護身術は鼬と同じく最後の一發猛臭無類獵犬等は半日生氣を失ふと▲彼等は此武器に慢心して時に自ら驀進中の列車を逆襲し屢々臭骸を路上に晒す事があると▲珍獸中の珍なるものか▲福岡に來り大活動中なる平沼檢事總長が十七日午後六時突然旅館にて卒倒したと云ふ電報があるかと思ふと▲東京の總長宅へは何の通知もなく家人は何等かの間違ならんと濟す▲人騷がせの爲か否か近頃以て物騷千萬なり

▲廣告▼

公告
大正七年中ノ取扱ニ係ル商業登記其ノ他ノ公告ハ規定ニ依リ當院竝仁川支廳江華出張所ノ分ハ朝鮮新聞京城日報ニ掲載ス
大正六年拾貳月二十日
京城地方法院

業務親切 倉庫完全
明治町二丁目(支那領事館小路)
片山質店
電話一二五一番 振替京城三七〇九番
勸業貯蓄債券高價買入

陸軍拂下
實用軍服外套靴下手袋其他一切 竝に諸官衙拂下品物
京城府漢江通 電話三六番
佐藤古着店

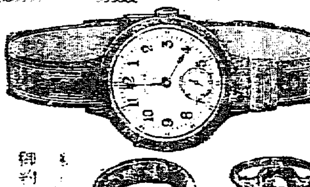
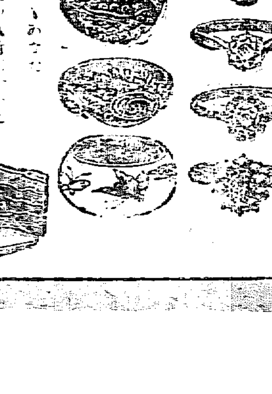
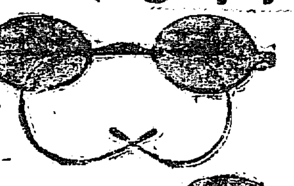
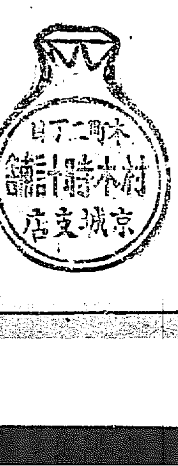
マッチ(燐寸は)

ねの安い 品質保證の…… 最經濟的『マッチ』は…… ハネシカに限る
京城本町 電話三五〇番
森久本店

京日案內
普通一回前金五十錢 番外一回前金(一回廿錢)
▲市內は後金 ▲六回以上の廣告は特に割引 ▲御照會は必ず返信料を添へられたし ▲御申込は必ず前金の事
◉見習看護婦至急入用 希望者は本人直接來談ありたし 京城旭町一丁目 島崎病院 190
◉融通 月收の御方へ極秘迅速 大和町三ノ三二(病院前)起本屋 177
◉寫眞技師一名 門生數名至急募集 乞來談 黄金町 岩田寫眞館 電話五二二番
中古貸物 ピアノ三臺オルガン一臺あり 貸ピアノあり 本町 ウツボヤ書店 133
新製 鳩居堂 香筆墨 組合 茶及茶器 京城本町二丁目 電話二〇〇五番 清心堂 189
清酒百丁 格安品至急買度し 希望者來談あれ ◉黄金町三丁目 電話三四六番 杉本質店 174
商品切手 便利に賣買 京城永樂町二丁目五番地 電話一四九八番 丸五商會 175
○はねつき うちみ くじき 一切の治療御依頼に應ず 明治町 柔術道塲 87
恩給 年金長期低利即金立替 手數料最低 二年分迄無保險 千圓以上特別扱 京城若草町百六 電話三〇壹壹番 西村商會

◀大々的大割引 歲暮大賣出し

新著荷大賣出し
クリスマス裝飾品一式 敎育玩具歲暮御贈答品一切
京城府明治町一丁目
敎育玩具卸 裝飾品一式
吉岡商店
電話一八四〇番 振替京城三〇八九番




昨夜御注文の村木時計舖から ダイヤ入指輪や金時計其他色々珍奇なものを持つて參りました 早く來て御覧なさい
もうすぐあなた 御約束の八時丁度になりました


電話四七一番 をお呼び下さい

歲暮良好の贈答品は 島屋發賣の
島屋特製 都奈良漬 五色詰合 自四十錢至三圓五十錢
岐阜名産 守口漬 樽詰各種 自四十錢至二圓五十錢
靜岡名産 山葵漬 樽詰各種 自四十錢至二圓十錢也
京都名産 蕪千枚漬 樽詰各種 自五十錢至二圓也
島屋別製 都味噌 正味五貫入 二圓五十錢
島屋吟釀 醬油 自二圓五十錢至四圓五十錢
に限る
○市內信用ある食料雜貨店にて販賣す最寄の御店で御買求め下さい近來粗惡の模造品が多數ありますから御買上の際は島屋製と御指定下さい
○御用命の際は電話六〇〇三番・二二三〇番へ御掛け下さい
京城北米倉町 島屋本店販賣部 振替口座京城五七番

[illegible]氏落選され評議員は從來八名なりしを十名とし松本、厚田、岩田、

[illegible]議會頭の發起にて開催されたるが出席者數十名に上り盛會なりし

[illegible]託となり(二)府郡聯合共進會を群山に開催する件を當局に要望する件は大塚、湖部、楢田氏等

[illegible]稅關敷地擴張に付ても希望を具陳すべく委任する事となれり

[illegible]となりたるに依り從來約千六百頭の牧畜なりしに昨今は既に二千百[illegible]

[illegible]からざるに依り朝鮮[illegible]は今回第三共同丸(二六九噸)を借入れ鮮牛輸送に專用すること

[illegible]ろ筈にして爲めに間島在住鮮人等は將來の安穩を期待し居れり

[illegible]講習所咸興女子養蠶傳習所及び永興北靑の兩女子養蠶傳習所に於て製造せる蠶種は春蠶二千百十一枚夏蠶約百二十八枚計三千三百三十[illegible]比し自家用製造減少せしは[illegible]關の製造に係るものと自家製のものとを比較飼育したる結果自家製の成績不良なりしを以て北製種を[illegible]

[illegible]人を[illegible]に周旋すべしと詐言を弄し運動費及び時代十圓金と稱し去る四月一[illegible]公判に附せられ[illegible]

植民地生活廿餘年（上）
近く朝鮮を去つて東京に移轉する
石塚東拓總裁の追想談

近く東京に移轉する東拓總裁石塚英藏氏を訪ひ、其の朝鮮を去らるゝに就ての感想を聞いた、日當りの好い永樂町總裁舍宅の應接室。暖爐を圍んで總裁は語る

朝鮮を去ると云つても吾輩の管掌する東拓の業務は最も朝鮮に深い關係を有し且つ當分は朝鮮が根幹となるのであるから、今後も

▽折に觸れて屢々

やつて來るし、又必要が起れば再び朝鮮の生活も滿洲の生活も致して辭せぬ考へである、乃でさうも朝鮮離別と云ふ樣な感想は浮ばない然し朝鮮の追想となれば三日や四日では到底語り盡きぬ程色んなものを有つてゐる、雖公表を憚る事の少なからざるを遺憾とするのだ顧れば予の殖民地生活は明治三十一年三月臺灣總督府參事官長として赴任した時に初まり關東州を經て朝鮮に轉じ、今年で恰度

▽二十年の歲月を

經過してゐる、然し精確に計算すると、明治二十七年十二月、日清戰爭の餘程進んだ頃吾輩が法制局參事官たる身分で韓國政府の內閣顧問官に聘され約一年間京城に在任した時より起算しなければならぬかも知れぬ、何故なれば臺灣に行つたのは其の京城生活が因をなしたとも見られるからである、其の明治二十七年渡韓したのは恰度韓國政府で內閣顧問官を日本政府に需めた爲めであつた、當時韓國政府の

▽第一に希望せし人

は一二回京城にも使し人物の溫厚篤實に加ふるに博識を以て朝鮮當路の大臣にも推稱された現樞密顧問官當時の法制局長官末松子爵であつた然し子爵は色々の關係上其の聘に應じられなかつた、乃ち當時の內務省官報局長の故奧田義人男を需めた、奧田男は夙に懷思甚深の人であつたから亦其の聘を辭した、結局お鉢は

▽吾輩に廻つて來

た、吾輩は二十九歲と云ふ若さであり元氣でもあつた『よし來た』と許り快諾して、單身旅裝もそこ〳〵東京より廣島に急行し……戰時で大本營は廣島に移つてゐた、伊藤總理を訪ふて井上公使宛の紹介狀を書いて貰ひ、內閣顧長今の伊東子にも會つて、すぐ陸軍の御用船に便乘し、幾日かを費やし仁川に上陸した、何でも座席もスクルーの眞上に置かれ終始ガラ

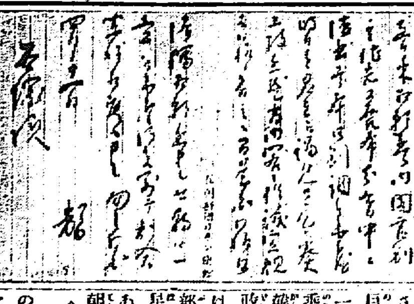
▽空廻りする音に

苦しめられた、全羅南道の近海を廻る頃になつたら、一層烈しい時化に遭ひ、船は木の葉の如く飜弄され吾輩は今に忘れ得ぬ程苦しい目にあつた、仁川からは馬で漸く一日を費し其の年の暮れに京城に乘込み光化門前の官舍に居を構へ韓國政府の內閣顧問として半島の政務に關與した、當時財政顧問には今の上院議員仁尾惟茂君、內務部には齋藤修一郎君、司法部には星亨君、宮內府には岡本柳之助君あり、公使は故井上馨侯の時代で朝鮮近世史上

▽最も變化と曲折

のある時代であつた、翌年の十月八日、例の有名な閔妃暗殺事件の決行された後であつた

石塚總裁が韓國政府顧問官たりし明治二十八年四月內閣官制に關する事項に付故井上侯の總裁に送りし書翰



乃木邸を公園に

中央乃木會唯一の事業たる赤坂の乃木公園は愈々近く公園としての設備を完成すべく井下東京市園藝主任の手に設計を進めつゝあるが其概觀を聞くと乃木大將の舊邸並に其庭園は飽く迄原形を保存して大將夫妻生前の俤を彷彿すべく六百三十八坪の全部に渉つて木石の布置を替ざるは勿論既に東京市が建設した監守住宅敷地の如き嘗て大將夫人が手ら大根を耕作した深き因緣あるに依り住宅を新擴地域に移轉して昔ながらの畑地とし四季折々の蔬菜を培養して夫人の生前を偲ばしめ現に繁茂せる樹木は悉く之に入念の手入を加へて發育の助長に努め乃木坂に亘つて新に擴張すべき三百六十四坪には約百五十坪の楕圓形兒童遊園所を作り周圍に椎樫等の植込を作つて風趣を添へる而して之に要する費用は約八千圓に達するが著手は來年度になるだらうと（東京）

電車衝突
重輕傷者多數
深草停留所の椿事

二十一日午前十時半京都電鐵の電車深草練兵場停留所にて大衝突をなし數名の重輕傷者を出せるが內二名は生命危篤なり（京都電話）

又も暖爐で生徒燒死す

平北新義州公立普通學校一學年生徒金孝濂（二）は十二月十七日午後一時半頃教室にて暖爐を背にして暖まり居れる內火が著衣に燃え移りて兩脚より背部後頭部に掛けて大火傷したる騷ぎに醫師が驅けつけ應急手當を加へしも十八日午前十時頃遂に絕命せり

家諸共に燒死し

全北南原郡豆洞面細田里五百八十番地金明彥（六）は十二月十六日午前八時半頃朝餉の準備中焚火が松葉に延燒したるより之れを消し止めんとする際火が忽ち著衣に延燒して生不動となり遂に家諸共に燒死するに至り同十時頃鎭火せり

馬賊頭目歸順

鴨綠江對岸汪淸縣太平溝に根據を構へ部下二百餘名を率ゐ各地に出沒し居りたる馬賊頭目王林は今回支那官憲に對し歸順の意を表したり同人は近く相當の官職に就任す

◇京城の好みは今樣の物
今年流行の羽子板はどんな物

お正月が近く、追羽子を樂しむころとなりました、羽根突きは京城のやうに寒いところでは、若い娘たちの遊戲として、いかゞなものかとも思はれるけれども、氷滑りにさへ行く人がある位であるから左程心配する程の事もないと思はれる、しかも婦女子の遊戲としては體育上の效果も多く、品もよく興味の多いものです、京城では追羽子は餘り盛んではないが、それでも羽子板は割りに賣れるさうです、三越を始め市中の玩具店、小間物店では今年流行の羽子板を陳列してゐますが、京城の好みは俳優の似顏繪など今樣風の美人だの花鳥風月が多いのでこれらのものが最も多いが、役者の似顏繪では仁左、歌、羽左の三右衞門は勿論人氣者の菊五郞、吉右衞門、梅幸、幸四郞、左團次、福助などの舞臺姿が揃つてゐるさうです、そして吾々は羽子板は單に追羽子の道具といふよりも日本間の室內の裝飾品としても面白いだらうと思ひます。

十九戶全燒
大阪四貫島

二十一日朝大阪四貫島にて火災あり十九戶全燒し六戶は半燒にて損害七萬圓（大阪特電）

四日間に二十二回放火

咸南文川郡明峴面西村里李萬海妻權成一（二）は十二月二日より五日迄の間に同里李光甫方外五戶に前後二十二回放火して全燒又は半燒せしめたること發覺して權成一は文川憲兵分遣所に逮捕され目下取調べ中

冬至

二十二日午後六時四十六分（京城の時刻）は『冬至』に當る、冬至は二十四氣節の最終であつて、易經に『冬至陽之復也』とある、昔しから一年中最も日の詰りたる日で、之れから愈の日は日が伸びると稱せられてゐるが實際は爾うでなく日の短い時は今年は十二月十七日から二十七日まで晝間九時間と三十五分、夜間十四時間と二十五分である、二十八日から夜は一分間詰まり晝が一分間伸びて三十一日には晝間九時三十七分となり明年の一月末日には同十時十七分に伸びる

鐵製船の流失　咸北城津

咸興郡森商會森野和一郎所有鐵製團平船（百八十噸）は十二月十日慶興郡雄基港內碇泊中風浪の爲めに纜を切斷されて港外に押し流され行衞不明となれり乘組員及び積荷等なかりしも船體の損害約一千圓なり

揃つた亂暴者　咸南安邊

安邊郡鶴城面郭下里崔昆錫（二三）は去月十日同里崔秉夏方へ犯人搜索の爲來りたる安邊憲兵分隊の中山等兵が秉夏に對し訊問中口論の結果同家に來合せたる金鳳瑞、金擧瑞、金波浴等と共に中山を縛したる上棒を揮て之を毆打し頭部其他に數ケ所の打撲傷を負はし人事不省に陷らしめたる事件は十二月十二日元山支廳に於て傷害業務執行妨害罪として崔昆錫は懲役二箇月の言渡しを受けたり

死刑が無罪　平南成川郡

大邱面巨山里農鄭達玩（三五）は大正三年中同郡九龍面高尺里李學峰の妻鄭氏（二八）と情を通じ爾來學峰が妻子と共に江原道に移住し其後九尺里に立還し更に本年四月巨山里に轉居するや其都度自分も居を移し遂に鄭氏と共謀の上七月二十日學峰の外出の途上を擁し鎌を以つて殺害せる事件は一審に於て兩者共死刑に處せられたるが去十八日覆審法院に於て前判決を取消し達玩は死刑に鄭氏は證據不充分にて無罪の言渡ありしが達玩は直ちに上告せり（平壤）

難破船　咸北城津

新岩洞金秉秀所有帆船に鰊（四百四十圓）牛車の車臺三十組（百三十圓）を積み十一月二十六日咸北明川郡下古面二坪洞の沖合を航行中激浪の爲め破し積荷全部を海中に投棄して辛くも避難せり

歲暮の贈物

歲暮の贈答品としては體裁が好く且つ實用的で保存に安全であり且つ何方にも歡迎さるゝものは卷煙草であらう夫れに數ある卷煙草の內にありて拾數年の久しき最も大多數の愛煙家を引きつけて居るのは『敷島』と『朝日』の二つで所謂金看板づきで世間既に定評ある

▼最好の品で

ある、今年は昨年の暮に較べると總ての品が非常に騰貴つて、品物によつては五割も六割も中には倍以上にも騰つてゐるのもあるが、一匣も値段の騰らないのは[illegible]煙草會社の『敷島』と『朝日』なのであらう。此の煙草は

▼萬人向きが

する上に貰つた方でも喜ばれると言ふ理由は二重になつても困らない上に貰つた方でも直ちに之れを用ゐられると云ふ至極經濟的なる點に於て又たドコ迄も實用的なる點に於て外の物より優つてゐる更らに又た體裁から云つても申分の無い贈答品である殊に敷島の袋の中にはゑ急みの爲めとして三錢、一錢五厘一錢の切手が入つて居るから此頃では賣行きが好いさうだ。

▼『敷島』や『朝日』

に少し値の張り過る向きには外國煙草に等しい香氣を持つてゐる兩切り百本千圓、ウエルス、ヘルメツト、ダリヤ『カブト』などがある以上の兩切は景品附賣出中賣上一ボール毎に景品券一枚、一等には二十圓の商品切手四本以下、腕時計や事務用萬年ペン等を進呈するさうであるが之れも大正八年の運試しで其れかあらぬか殊の外賣行きが好い。

▲芙蓉煙の割引賣出

贈答品として賣行が好い

氣が利いて經濟的な歲末の贈答品としては卷煙草であることは前述の通りであるが昨今內地では官煙『芙蓉』が進物用として相當に賣行が好いと云ふが之れは『芙蓉』標の表裝が優美であるのと品質も好いから上中流の家庭に嗜好せられつゝあるからであらう、京城では年末中一定の數量を限り芙蓉の割引賣出しをなしつゝあるが賣行非常に良好であると

賑ふ禪林
廿二日は冬至

◇◆◇早や二十二日の冬至が來た我禪林に於ては支那の古例に倣つて前晩から休息することになつて居る。がある、何處も同じことで勉强するよりは遊ぶ方が面白い、殊に晝夜雙手香だの無字だので攻め立てられる雲水の身には嬉しいものだ

◇◆◇午後五時半頃は冬夜の開板が鳴る、方丈に於ける總茶禮がある、各自湯呑茶碗を持つて方丈に至つて待つて居ると老大師が出席になる[illegible]に家中の面々が居並んで居るのに能く似て居る、ハイさ云ふ命令調に一同低頭する、このハイさ云ふは文法から云へば命令詞ではないけれども

◇◆◇禪林の習慣として常に此詞を使用することになつて居る、そこで老大師から光陰可惜時不待人と云ふてある通り隨意座と云ふても貴重な時間を空しく費してはならぬ宜しく古人の刻苦精勵した事を考へて骨を折らねばならぬ殊に冬至とは一陽來復を云ふのだから所謂一陽來復新の氣を迎へて出精せねばならぬぞ―ハイ』と云ふやうな懇切な御垂誨がある。

◇◆◇一同頭を上げると茶を注いで廻る、一齊に飮して喫茶一番老大師は隱寮に歸られる、その後で知客寮の[illegible]から同じやうな饌を設けて寺の方に退き去る總茶禮が濟んで禪堂に歸つた大衆の喜び各自の顏に滿ち〳〵て長閑な春のやうな氣持になる、これから十二時までは[illegible]の無禮講が許される、その上禪林獨特の御馳走に平常禁ぜられて居る酒も許るのだから各自の隱し藝は續々と出て來る

◇◆◇大抵一つの禪堂には四五十名の雲衲が修行して居るので女人も跣で逃げ出すやうな隱し藝も出る、而かも平常の鍛錬を積んで居る雲水のことて無禮講の內にも自ら進退度あると云つたやうな塩梅で少しの凝滯もない處が又面白い、十二時になると寺の方に遠慮して居つた直日（禪堂長）が這入つて來て

◇◆◇就寢の合圖を打つ一齊に寢就くのを見て直日は又寺の方に退くこれは一日に充分安心して寐ませる爲めであるかくて翌朝になると雞鳴から冬至の祝聖が嚴肅に行はれる、之れが濟むと又隨意座で元氣な連中は裸體になつて此の寒天に角力を取るなど法戰の修羅場を演じた禪室も全く歡樂場となるのである

うわさ

▲人の身體は夏は生理上精神も皮膚も弛緩する爲め病の誘引が多く兎角に健康を損ね易いが▲冬は抵抗力が强くなるため比較的健康を保ち得るので病院などでは冬は患者が少い▲然で人の心も自然緊張して來るから年の暮になると素敵に忙しいので病氣も少く▲年中を通じて病院の閑なのは昨今であるとは鳥取病院長の談▲電話交換手の最も忙しいのは例年暮の二十七日で此日は平日の三倍以上の通話數があるが▲正月元日は官衙會社は言ふに及ばず一般商家も休業するので電話の閑な事を言つたら火の消えたやうで▲一年中元日位靜かな日はないとの事

新百藥の長

酒は百藥の長とは吾國古來の俚諺なれども、たゞに『憂を掃ふ玉箒』たるに止まり、病を醫する百藥の長に非ず。眞に百藥の長とはホシ人參規那葡萄酒を言ふ。本品は純良なる天然葡萄酒を基礎とし、之に胃腸を健全にする規那と精力を增し腦力を强むる人參とを巧妙なる獨創的操作を以て配合したる補血强壯飲料にして『憂を掃ふ玉箒』たると共に『病を醫する新百藥の長』なり。

ホシ人參規那葡萄酒

一身體貧血せる時
一生來虛弱なる者
一食慾の缺亡せる時
一精力減退したる時
一營養不足なる時
一產後病後衰弱時
一腺病（ルイレキ）慢性下痢
一疲勞したる時
一腦神經衰弱症
一ヒステリー
一萎黃病貧血液疾患等に好適飲料なり

星製藥株式會社
東京京橋南傳馬町三丁目
電話京橋一七八五番

滋養强壯　甘味芳醇

一合五勺入　金壹圓五拾錢

最新刊

書名	著者	定價
繪本稗史小說 第二集		三八
漱石俳句集	夏目漱石	一〇〇
小說人之心	稻岡正文	一〇〇
宣言	有島武郎	五五
夢と六月	[illegible]	四〇
結婚	バナンド、ショオ作 野上臼川譯	七〇
運命の影に	松崎天民	五〇
死ぬる人	クルイジャノフスカヤ作 [illegible]譯	六〇
現代の男女へ	平塚明子	一四〇
戀と死	ヘッチェ作 [illegible]	六五
山水小記	田山花袋	一一〇
第十一回美術展覽會傑作畫集		七〇
通俗倫理談	[illegible]	一〇〇
鎌倉名家 大斜定石法	府內今名家大斜會員	一八〇
新渡航法	永田稠	一〇〇
最近移植研究	日本移民協會	一四〇
歐洲戰時の努力	[illegible]	一八〇
英國戰時の[illegible]	[illegible]	一八〇
國運命之研究	[illegible]	一八〇
大奧の女中		一二〇

大阪屋號書店

本場みかん賣出し　ネーブル、金柑、ハツキミカン多數あり

□御進物御贈答には紀州本場みかんに限る

來る十九日二十日五十噸廿三日五十噸廿八九日五十噸着荷豫定一箱賣と雖も卸賣同樣に提供可致候但五箱以上配達御斷り

園藝、生絲、雜穀、果實、海產物　貿易商　紀州蜜柑京城販賣所　京城南米倉町市場　岩城貿易商會　電話八四二番　振替京城一一〇六番

良品の藥品と賣藥が揃つて居ます　クラブ化粧品代理店ですから……何品でもお安いです

京城本町二丁目　古城賓化堂　電話一〇二番　振替七三三番

移轉御披露

今般業務擴張の爲め從前の眞前へ移轉仕候間此段謹告仕候也

冬物全部品揃

雜貨店に急告　メリヤス類仕入には　京城　瀨戶商店に限る

仕入案內御入用の方は御一報次第呈上仕候

メリヤス雜貨卸商　京城南大門通一丁目　電話二七〇　振替京城二四〇四番

櫻御殿

大阪　霞の家主人

第百三回　恩と仇（三）

『痛うござらう、恩を知らねば犬畜生ぢや』と芳野は吐き出すやうに云つた
采女は頸重げに垂頭く
『お前様の心では助左衛門殿にも恩があるとの思召でござらうが、助左衛門殿に恩はない、助左衛門殿がお世話でされたのは、皆な奥方様のお喜捨りがあるからぢや、それもお分りでござらうの』と芳野はまた心に釘を打つ如く云ふ
『はい』と采女はまた垂頭く
『芳野の云ふたこと、和主分つて居やらうの』
美知姫も口を添へた
『はい、分つて居ります』
『初瀬は今及の下に立つて居るぞよ、恐しい及の下に……和主、それを見捨てゝ可いか』
采女は左右から問ひ詰められて詞は無く控へて居た
『弱年ながら武士ぢや、犬畜生になつて何と為らう、和主が斯うして安穏に暮らして居るは、皆な初瀬の恩でないか、その初瀬が及の下に立つを、餘所に見るは義であるまい、何をして恩を復すか、何をして義を盡すか、わしは夫が聞きたいわの』と美知姫は強く云ふ
采女は左右何れかへ返答せねばならなかつた、漸くとして
『わたくしもそれを思はぬぢやござりませぬ、なれど召使の者——』
『召使が何ぢや、召使は故障があるとて、妾を忘れて好いか』
『は、は』と采女は後をつぎ難ねた
『美濃の青基を通るとき、和主の儀が大病に悩み居るを見るに見兼ね、わしの前へ執成したはこゝに居る芳野、別しては初瀬ぢや、初瀬の云ふには、幼少ながら一命お[illegible]り氣なさま、義理にも深く、[illegible]にもさまざまに申した故、同道して立ち帰つた、それは和主は武士の端と思へばこそぢや、犬畜生の心を持つた者と知つたら、目通りも許さうか、一命の扶持を與れやうか、誰あらう安藝侍従様の奥深く、犬畜生が勤め居ると知れたら、天下の胡亂、家一統の恥となる、和主は主に恥與かせるのが望みか、返答の模様によつては、わしの胸にも思案がある』と膝を進めながら云ふ
采女は沈と考へたが
『さらば何うしたら好いのでござりませう、道にさへ協ふことなら、お指圖通りに致します』と云つた
『さあ、其處ぢや』と芳野は側から口を出した『助太刀をするといふて、和主は幼少、何の補足にもなるまい、誰か頼む人はないか』
『わたしには村平一人あるばかりでござります』
『村平とは背甚で病苦に悩んで居た者か』
『御意にござります』
『左様な下郎が何の役に立つと思やる、その外に誰ぞないか』
『誰もござりませぬ』
『いつそ清之亟殿を頼んでは何うあらう』と美知姫は思ひ付いたやうに云つた
『清之亟殿はわたくしの味方ぢやござりませぬ』
『お味方では無うても、お館の御家人ぢや、且は義理を餘所になさる方でもござるまい、奥方様のお言葉をもつて、一應お願ひなされては何うでござります』
芳野は、清之亟と初瀬との間を熟く知つて居ながら云つた
采女は両手を組んで考へた

銃修繕　玉井工場（多年經驗と完全なる設備）京城[illegible]町二丁目　電話[illegible]

朝鮮短歌會詠草（[illegible]）

[illegible]　　築山繁樹

雨にぬれし土につめたく月しろの光流るゝ夜更なりけり

土に落つあはれ涙のひさしうくかすの黄金にまさるとおもふ　　みれ子

そこひなく降りふる雪のにじみゆくさまの[illegible]に見ゆ[illegible]に

[illegible]月の心うれしも夜の雨に[illegible]はもがやく　　木鄉彦子

咲ききりし鉢の小菊にホヤ[illegible]色に出にける　　作太郎

すさみゆく心の底を[illegible]山の[illegible]にわれ

[illegible]むくりむくりとふくれたる[illegible]山の[illegible]の[illegible]が降る　　難波英夫

もう門もない城壁のなき淋しい[illegible]に　　角田芳子

[illegible]のかるみの土の如くにげがたくらわが[illegible]ふみにじられし

砂糖

五斤入
七斤入
十斤入
廿斤入

其外好適品各種取揃有之候

千利堂菓子舗　南大門通（電話[illegible]）本町[illegible]（電話[illegible]）

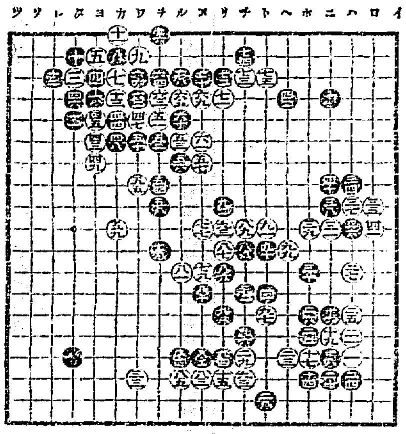
△お歳暮贈答品は何がよい？　思案召さるな！！

圍碁手合

第二局の十五番

三段　山平壽氏
二子　大久保雅彦氏

白の二十八（一一八）より黒ト十三（百）手迄



自六七は六の二黒八の所に抛ぐ

見よ―見よ―偉大なる發明の力

世界的名聲を得たる最新發明品…『用中式安産いわた帶』の効力で是からの妊婦は幸福である、流産したとか難産の病氣で死ぬとか云ふ事はキツト無くなり、健康なる子孫が續々生れる

此の大評判の『用中式安産いわた帶』は斯界の專門大家田中先生が腹帶撲滅の[illegible]に[illegible]の公許を得[illegible]醫界に[illegible]として[illegible]地にまで[illegible]者は[illegible]されつゝ有升

優秀高尚にして[illegible]を製造されたる『用中式[illegible]帶』はタッタ二つのボタンを外づしお出來て[illegible]で腹部一面にキチッと[illegible]何にも不思議[illegible]具合よく上に[illegible]く微妙なる[illegible]伸縮自在で心地よく[illegible]け胎兒の發育を適度に[illegible]位置を正しくし[illegible]と御安産が出來る[illegible]を効力があり升[illegible]

新案特許　意匠登録　顧問[illegible]

定價一圓[illegible]
本品を御使用なさるが世には罪へきれない[illegible]を[illegible]

田中商店　京城本町[illegible]

質　田村質店　黄金町[illegible]丁目　電話二九一六番　大口歡迎　商品擔保便利取扱

はみがき藥はツバメ　純良なる學的歯磨

[illegible]

小兒科　内科　入院隨意　無料施療す

賛化病院　院長　醫學博士　岡山[illegible]　副院長　上野[illegible]

廣告

來る大正七年一月一日新年祝賀の名刺交換會を開催し以て從來の慣例に代へむとす御賛同の諸彦は左記事項を承知の上會費金五十錢を添へ京城府寄附務係まで申込まれ度し

大正六年十二月十九日

京城名刺交換會發起者

原田金之祐
金谷充

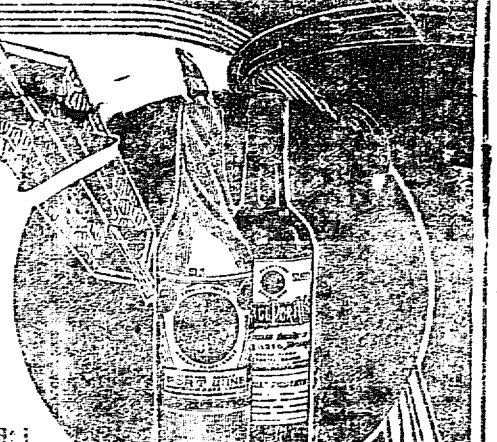
左記

一、會場　京城府[illegible]小學校
一、日時　大正七年一月一日午前十時
[illegible]

今年も亦歳暮年始の贈答品には買つて重寶な赤玉が一番!!

酒精分は極く少なく美味で滋養一番の葡萄酒

赤玉ポートワイン



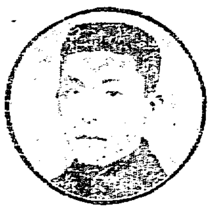
朝夕一杯は百藥に優る[illegible]も不思議に體溫を保ち血色をよくする美味滋養の葡萄酒!!

のんびりとした入浴

（ミツワ文庫六、一二）

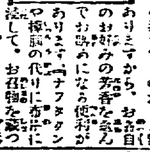
背中の閑日月は誰にも必要　浴槽に浸りし寛ろいだ心持

中村吉右衛門談



先月興行には何日の座へも顔を出さずに暇つた身體の餘暇をいたし、ます湯治場へ參りましたが、さて忙がしく芝居をして居た身體で少し居を離れて見ますと閑散の度が一入に嬉しく[illegible]浴槽に浸つて居ります心持は何とも云へない樂でございます[illegible]の中の忙しい最中にのんびりした入浴[illegible]るまいと[illegible][illegible]

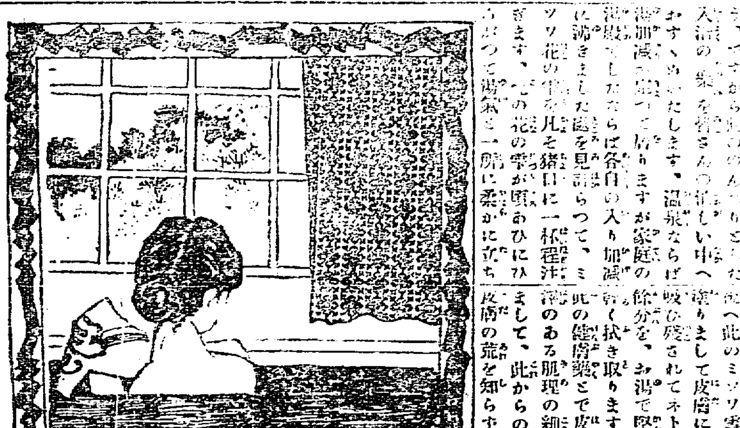
白い泡沫を一體に塗ります、しつこりと揉できますと此の石鹸の作用で汚垢が吸はれる様になつて此の泡沫に混りますから、此をお湯で流しますとするりと氣持よく落ちて皮膚は清潔になり、なんとも云へぬ清潔になります、此の清潔になりました皮膚へミツワ雪の雫を塗ります之が皮膚を滑らかにし肌理を細かにします健膚藥ですから、ミツワ石鹸で皮膚を清潔にしました處へ此のミツワ雪の雫を顔や手へ塗りまして皮膚に擦り込む様にし[illegible]



▲中村時藏曰く　外出時の手巾につけます香水は[illegible]でございます、[illegible]ミツワ三[illegible]のお好みの芳香をお選みになる便利がありますから、お[illegible]や袂の代りにお召物を[illegible]して、お召物を畳つて置きますと[illegible]お召物[illegible]に[illegible]なつて[illegible]

た湯きました處を見計らつて、ミツワ花の雫を凡そ猪口に一杯程注ぎます、此の花の雫が頗る[illegible]に[illegible]あつて湯氣と一所に柔かに立ち[illegible]

此の健膚藥とで皮膚は健やかに潤のある肌理の細やかな肌となりまして、此からの風の寒い時にも皮膚の荒を知らずに過せます、斯うして、のんびりとした入浴をしました上りの心持は[illegible]



迷つて爽かで膚の透く様に薫が甚處にも此處にも身のまはりをつゝみますから、香水風呂へでも入つて居ります様で、それこそ贅澤な心持が細緻に[illegible]されます、鑛湯でしたら湯にとりまして上り湯にミツワ花の雫を四五滴たらして用ゐます、此のお湯でいゝ心持に浸れて浴槽を出ますと肌の汚垢が浮加減になつて居りますから此へミツワ石鹸を掌で溶いた雪の様にて置きますことは私が有名な汗つかきですから同じことでお苦しみになつていらつしやる方へおすゝめしますとは湯上りに汗の出て氣味の悪い處へミツワ撒布藥を撒布しますと宜しうございます、手袋なり足袋なりの内側へ撒布して置きますと此が恰度足臘なり手套なりへ當りますから足袋ずれとか結る様な氣味の悪さが無くて濟みます。

釜山出帆廣告

○汽船門司、神戸、大阪行
和歌浦丸　一月四日　後五時出
立神丸　十二月廿四日　後五時出
○元山、清津、浦潮行
和歌浦丸　十二月廿三日　後十時出
立神丸　一月　日後四時出
○佐須奈、嚴原、壹岐、博多行
天草丸　毎月二日九日十六日廿三日　午後十一時出帆
○元山、西湖、新浦、城津、清津行
第三琴平丸　月　日後六時出
○門司、宇品、神戸、大阪行
第三琴平丸　月　日後六時出
本町一丁目　大池回漕部

尼崎汽船　仁川出帆
新山、木浦、釜山、下關、大阪行
秀吉丸　十二月廿八日　後四時出
大有丸　十二月廿一日　後四時出
赤城丸　十二月廿五日　後四時出
○君が代丸　十二月廿四日　後四時出
▲仁川港町五丁目　電話五十九番　島杉回漕部

共同汽船　仁川出帆
鎮南浦、芝罘、大連行
共同丸　十二月廿九日　午後入港　十二月三十日　午前出帆
[illegible]
同濱共同汽船株式會社
本町四丁目（電話一七三番）野口商會
仁川代理店　春日町（電話二四七番）田口回漕店
元山代理店　南大門（電話二六八二〇一七）河野運送店
京城取次店

間自動車著發時刻
金泉、尚州
下り　一番車　二番車
上り　一番車　二番車
[illegible]
織居自動車　金泉支部
▲小荷物運搬仕候
金泉電話四八番

日本郵船　仁川出帆
○大連行、秦皇島行
相模丸　一月十日　正午出
竹島丸　一月一日
淡路丸　十二月廿九日
仁川港町一丁目　堀回漕部

大阪商船株式會社　仁川出帆廣告
仁川出帆
×神戸、大阪行
濟州丸　十二月廿五日　午五時出
×木浦、釜山、嚴原、鄕ノ浦、長崎行
安東丸　十二月廿五日　午二時出
×安東丸　一月八日　午二時出
鎮南浦、大連行
安東丸　十二月廿　日　午二時出
大連直航
安東丸　一月四日　正午出
元山出帆
西湖津、新浦、城津、清津行
安平丸　十二月十六日　後十一時
釜山、門司、宇品、神戸、大阪行
安平丸　十二月廿二日　後九時出
大連出帆
上海、基隆、打狗行
湖北丸　十二月卅一日　前六時出
内地各港出帆主要航路
南米行　毎年四回
北米行　毎月二回
濠洲行　毎月一回
南洋行　毎月一回
[illegible]
大阪商船株式會社仁川支店　電話二三番
京城切符發賣所
仁川京城通切符發賣所

大阪米[illegible]
[illegible]